

YAMAHA

MUSIC SEQUENCER

QY70

取扱説明書

ベーシックガイド



XG GENERAL
MIDI

安全上のご注意

ご使用前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。

注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」と「注意」に区分しています。いずれもお客様の安全や機器の保全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

記号表示について

△ 記号は、危険、警告または注意を示します。

⊘ 記号は、禁止行為を示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

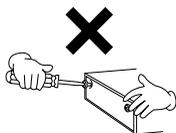
● 記号は、行為を強制したり指示したりすることを示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

* お読みになった後は、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

警告 この表示内容が無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が想定されます。

 この機器の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、または故障などの原因になります。異常を感じた場合など、機器の点検修理は必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご依頼ください。



 浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。また、本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。

感電や火災、または故障の原因になります。

 電源アダプターコード/プラグがいたんだ場合、または、使用中に音が出なくなったり異常なおい煙が出た場合は、すぐに電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜く。(乾電池を使用している場合は、乾電池を本体から抜く。)

感電や火災、または故障のおそれがあります。至

急、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。

 電源は必ず交流100Vを使用する。
エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。

 電源アダプターを使用する場合は、指定の電源アダプター(PA-3B)以外は使用しない。
(異なった電源アダプターを使用すると故障、発熱、発火などの原因になります。)

 手入れをするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。また、濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電のおそれがあります。

 電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。
感電やショートのおそれがあります。

注意 この表示内容が無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定されます。

 電源アダプターコードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源アダプターコードに重いものをのせない。電源アダプターコードが破損し、感電や火災の原因になります。

 電源プラグを抜くときは、電源アダプターコードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。
電源アダプターコードが破損して、感電や火災が発生するおそれがあります。

⊘ タコ足配線をしない。
音質が劣化したり、コンセント
部が異常発熱して発火したり
することがあります。



❗ 長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。
感電、ショート、発火などの原因になります。

❗ 乾電池はすべて + / - の極性表示通りに正しく入れる。
正しく入れていない場合、発熱、発火、液漏れのおそれがあります。

⊘ 乾電池は一度に全部を交換する。乾電池は新しいものと古いものを一緒に使用しない。また、種類の異なったもの(アルカリとマンガン、メーカーの異なるもの、メーカーは同じでも商品の異なるものなど)を一緒に使用しない。
発熱、発火、液漏れの原因になります。

⊘ 乾電池を分解したり、火の中に入れてたりしない。
乾電池の中のものが入ると危険です。また、火の中に入れてと破裂するおそれがあります。

⊘ 使い切りタイプの乾電池は、充電しない。
充電すると液漏れや破裂の原因になります。

❗ 長時間使用しない場合は、乾電池を本体から抜いておく。
乾電池が消耗し、乾電池から液漏れが発生し、本体を損傷するおそれがあります。

⊘ 乾電池は子供の手の届くところに置かない。
お子様が誤って飲み込むおそれがあります。また、電池の液漏れなどにより炎症を起こすおそれがあります。

❗ 他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行う。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にする。
感電または機器の損傷のおそれがあります。

⊘ 直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、またほこりや振動の多いところで使用しない。
本体のパネルが変形したり内部の部品が故障したりする原因になります。

⊘ テレビやラジオ、スピーカーなど他の電気製品の近くで使用しない。
デジタル回路を多用しているため、テレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。

⊘ 不安定な場所に置かない。
機器が転倒して故障したり、お客様がけがをした原因になります。

❗ 本体を移動するときは、必ず電源アダプターコードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行う。
コードをいためたり、お客様が転倒したりするおそれがあります。

⊘ 本体を手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは絶対に使用しない。また、本体上にビニール製品やプラスチック製品などを置かない。
本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。お手入れは、柔らかい布で乾拭きしてください。

⊘ 本体の上に乗ったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。
本体が破損したり、お客様がけがをした原因になります。

⊘ 大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。
聴覚障害の原因になります。

バックアップバッテリーについて

この機器はバックアップバッテリー(リチウム電池)が内蔵されていますので、電源コードがコンセントから外されても、内部のデータは記憶されています。バックアップバッテリーが消耗すると、ディスプレイに"Backup Batt.Low"が表示されます。バックアップバッテリーがなくなると内部のデータは消えてしまいますので、すぐにデータをヤマハMIDIデータファイラーMDF2などの外部機器に保存し、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にバックアップバッテリーの交換をお申し付けください。

⊘ バックアップバッテリーは自分で交換しない。
感電や火災、または故障などの原因になります。バックアップバッテリーの交換は、必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にお申し付けください。

⊘ バックアップバッテリーを子供の手の届くところに置かない。
お子様が誤ってバックアップバッテリーを飲み込むおそれがあります。

作成したデータの保存について

❗ 作成したデータは、故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータはヤマハMIDIデータファイラーMDF2などの外部機器に保存されることをおすすめします。

不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。また、データが破損したり失われたりした場合の保証はいたしかねますので、ご了承ください。

使用後は、必ず電源を切りましょう。
また、使用済みの乾電池は、各自治体で決められたルールに従って廃棄しましょう。

ごあいさつ

このたびは、ヤマハミュージックシーケンサーQY70をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

QY70は、コンパクトなボディに16シーケンストラック+コンダクタートラック(パターン、コード、テンポトラック)を装備した本格的なデジタルシーケンサーの機能と、高音質なAWM2音源(GM規格/ヤマハXG規格に準拠)によるトーンジェネレーター機能を搭載したミュージックシーケンサーです。

シーケンサーの入門機やコンピューターミュージックの音源として、また、ハンディで持ち運びに便利な音楽創作ツールとして、初心者の方からプロフェッショナルな方まで、QY70の豊富な機能を十分にお楽しみください。

QY70の優れた機能を使いこなしていただくために、本書を活用いただきますよう、ご案内申し上げます。また、ご一読いただいた後も、不明な点が生じた場合に備え、本書を大切に保管いただきますよう、お願い申し上げます。

取扱説明書の使い方

QY70の取扱説明書は、下記の4冊で構成されています。

ベーシックガイド ... 本書

QY70の基本的な操作方法をやさしく説明しています。必ず本書からお読みください。

リファレンス編

QY70の多彩な機能をひとつひとつ解説しています。分からないことや、こんなことをしたいという場合に、辞書で調べるように参照してください。

リストブック

QY70に内蔵されているボイスやプリセットスタイル、プリセットフレーズ、エフェクトのタイプ、パラメーター、MIDIデータフォーマットなどのデータリストです。

QYデータファイラー取扱説明書

QY70に付属のQYデータファイラーの使用方法について説明しています。QY70とコンピューターとの間で、曲データをやりとりする場合に参照してください。

これらの取扱説明書に掲載されている画面は、すべて操作説明のためのもので、実際の画面と異なる場合があります。

調べたい言葉や機能を探す場合、

- | | |
|------------|------------------------------|
| 目次 | (ベーシックガイド5ページ、リファレンス編3ページ) |
| QY70機能ツリー図 | (リファレンス編8ページ) |
| 用語解説 | (リファレンス編168ページ) |
| 50音順索引 | (リファレンス編173ページ) |
| アルファベット順索引 | (リファレンス編176ページ) |

をお使いになると便利です。

特 長

豊富な最新プリセットスタイル

さまざまな音楽ジャンルの伴奏スタイルを128種類内蔵。ひとつひとつのスタイルはイントロ、メインA/B、フィルインAB/BA、エンディングの6つのセクションに分類されているため、音楽制作にそのまますぐに利用することができます。

リアルなAWM2音源

実際の楽器音をサンプリングしたAWM2音源を搭載。リアルで表現力の高い音色を519ボイス、20ドラムキット内蔵しています。

パターンとソングによる 効果的な音楽制作

QY70では「パターントラックに、パターン(それぞれの伴奏スタイルが持っている6つのバリエーション)を並べてソングの骨格を作り、その上にメロディやハーモニーを重ねる」という効率的な音楽制作が可能です。

大型液晶ディスプレイにより イージーオペレーションを実現

コンパクトなボディに64×128ドットの大型液晶ディスプレイを搭載しているため、多くの情報を確認しながら正確な操作が可能です。

コンパクトなボディと電池駆動

QY70は、520gの軽さとコンパクトなボディ、そして電池駆動により、いつでもどこでも思いのまま曲作りが可能です。

高性能シーケンサー機能

16シーケンストラック+コンダクタートラック(パターン、コード、テンポトラック)の本格的なシーケンサーを装備。4分音符の分解能も480クロックとプロ用シーケンサー並の高性能です。

オートアカンパニメント機能

ヤマハの「クラビノーバCVPシリーズ」『ポータートーン』などで定評のあるオートアカンパニメント機能を搭載。コードトラックに録音したコード進行に従って、パターントラックの演奏が自動的に進行します。

コード進行は、プリセットでテンプレート(ひな形)が99種類用意されているので、コード進行の知識がなくても、手軽に伴奏パートを演奏させることができます。

豊富なレコーディング方法

QY70は、通常のリアルタイム/ステップレコーディングをはじめ、コードやユーザーパターンのリアルタイムレコーディングや、エディットモードでのMIDIイベントのインサートなど、さまざまな入力方法に応えます。

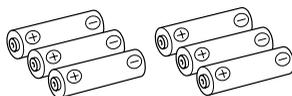
コンピューターと 直接接続できるTO HOST端子

QY70には、TO HOST端子があります。これにより、MIDIインターフェイスがなくても、直接コンピューターと接続することができます。

付属品について

QY70の付属品をご確認ください。

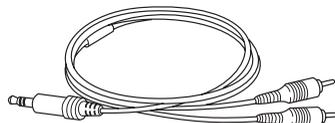
アルカリ乾電池(単3×6本)



オーディオ変換ケーブル

(ミニステレオ RCAピンL/R)

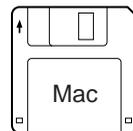
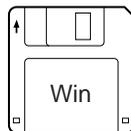
本体のLINE OUT/PHONES端子と、外部アンプ付スピーカーなどを接続する場合にご使用ください。



QYデータファイラー

(フロッピーディスク2枚)

QYデータファイラーとは、QY70で作成した曲データをコンピューターに送信して保存したり、市販のSMF(スタンダードMIDIファイル)の曲データをQY70に取り込んだりする時に使用するソフトウェアです。Windows版とMac版があります。詳細はQYデータファイラーの取扱説明書をご覧ください。



取扱説明書

ベーシックガイド ... 本書

リファレンス編

リストブック

QYデータファイラー取扱説明書

保証書、愛用者カード



音楽を楽しむエチケット

これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

楽しい音楽も時と場所によってはたいへん気になるものです。隣近所への配慮を充分にいたしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬ所で迷惑をかけてしまうことがあります。適度な音量を心がけ、窓を閉めたりヘッドフォンをご使用になるのもひとつの方法です。

ヘッドフォンをご使用になる場合には、耳をあまり刺激しないよう適度な音量でお楽しみください。

目次

各部の名称と機能	6
フロントパネル	6
サイドパネル	8
リアパネル	9
電源の準備	10
乾電池をご使用になる場合	10
ACアダプターをご使用になる場合	11
接続の方法	12
QY70の演奏を聴くには	12
MIDIキーボード/ シンセサイザーとの接続	13
MIDIデータファイラーMDF2との接続	14
MIDIシーケンサーとの接続	14
コンピューターとの接続	15
MIDIドライバーについて	18

第1章

QY70とは?	22
QY70の基本画面について	24
ソングモード	24
パターンモード	25

第2章

デモソングを聴いてみよう	28
・ソングモード・プレイ画面解説	28
・[SHIFT]を使えばとても便利!	29
・ループ再生	30
・シーケンサーボタンについて	30
ソングの構成を理解しよう	31
・ソングモード・ ボイス(ミキサー)画面解説	32

プリセットスタイルを 聴いてみよう(128種類(001~128))	36
・パターンモード・プレイ画面解説	36
・セクションについて	38

スタイルの構成を理解しよう	39
・パターンモード・ ボイス(ミキサー)画面解説	41

第3章

プリセットスタイルを使って ソングを組み立てよう	46
Time After Time	46
パターントラックのステップ録音	48
・パターントラック録音画面解説	49
コードトラックのステップ録音	51
・コードトラック録音画面解説	52

メロディ演奏を録音しよう	55
メロディトラックの録音 (リアルタイム/ステップ録音)	55
リアルタイム録音	55
・録音の種類	56
ステップ録音	58
・ステップ録音画面解説	59
テンポトラックの録音	63
ソングモードのジョブ	65
アンドゥー/リドゥー	65
クオンタイズ	67
コピーイベント	68

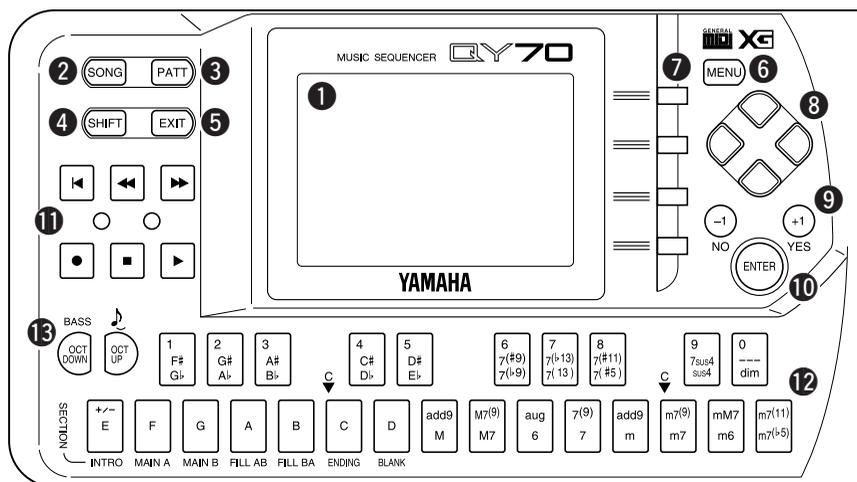
第4章

ユーザーパターンを 作ってみよう	72
INTROセクションの録音	73
MAIN Aセクションの録音	76
パターンモードのジョブ	83
コードソート	83
コードセパレート	85

おわりに	87
------	----

各部の名称と機能

フロントパネル



① ディスプレイ

QY70のさまざまなデータや情報を表示します。64×128ドットの液晶ディスプレイ(LCD)です。

② [SONG] (ソング)

QY70のモードを「ソングモード」に切り替えます。このボタンを押すたびに、ソングモードのプレイ画面 ボイス(ミキサー)画面 エフェクト画面 ...の順番でディスプレイが切り替わります。

[SHIFT]を押しながらこのボタンを押すと、プレイ画面 エフェクト画面 ボイス(ミキサー)画面 ...の順番でディスプレイが切り替わります。

③ [PATT] (パターン)

QY70のモードを「パターンモード」に切り替えます。このボタンを押すたびに、パターンモードのプレイ画面 ボ

イス(ミキサー)画面 エフェクト画面 ...の順番でディスプレイが切り替わります。

[SHIFT]を押しながらこのボタンを押すと、プレイ画面 エフェクト画面 ボイス(ミキサー)画面 ...の順番でディスプレイが切り替わります。

④ [SHIFT] (シフト)

他のボタンと組み合わせて使用することにより、いろいろな働きをするボタンです。(他のボタンの働きを拡張します。)

⑤ [EXIT] (エグジット)

メニュー画面や録音画面から、基本画面(前の画面)に戻るためのボタンです。また、ソング/パターンモードのボイス(ミキサー)画面、エフェクト画面でこのボタンを押すと、プレイ画面に切り替わります。

6 [MENU] (メニュー)

ディスプレイを基本画面からメニュー画面へ、メニュー画面からサブメニュー画面へ切り替える時に、メニュー/サブメニューリストを表示させるボタンです。

7 [F1]-[F4] (ファンクション1~4)
[MENU]を押して、ディスプレイ右側に表示されるメニュー/サブメニューリストから、メニューを選ぶときに使用します。4つのファンクションボタンは、上から[F1] [F2] [F3] [F4]と呼びます。

[SHIFT]を押しながら、ファンクションボタンのいずれかを押すと、次のようなはたらきをします。

[SHIFT]+[F1]

⑫鍵盤ボタンに割り当てられているドラム音色をリスト表示します。
(リファレンス編21ページ参照)

[SHIFT]+[F2]

QY70の現在のメモリー使用量をグラフ表示します。

[SHIFT]+[F4]

ジョブの「アンドゥー/リドゥー」を実行します。(リファレンス編45ページ参照)

8 カーソル(▲▼◀▶)ボタン

ディスプレイに表示されるカーソルの移動に使用します。

9 [+1] (YES) [-1] (NO)

カーソルが示しているデータの増減(変更)に使用します。[+1]を押すと、データが1増加し、[-1]を押すとデータが1減少します。押し続ける

と連続で増減します。また、[+1]を押しながら[-1]を押す(または[-1]を押しながら[+1]を押す)と、データの増加(または減少)が加速されます。

10 [ENTER] (エンター)

カーソルが示しているデータを確定したり、ジョブリストからジョブを選ぶ時に使用します。

11 シーケンサーボタン

([●] [■] [▶] [◀] [◀◀] [▶▶])

ソングやパターンを、再生/録音する時に使用します。テープレコーダーと同じ感覚で使用できます。(30ページ参照)

12 鍵盤 (E2~E4) ボタン

通常の鍵盤と同じように、演奏や録音ができます。また、伴奏スタイルのセクションの選択やコードの入力、ドラムボイスの演奏など、QY70の状態によってさまざまな働きをします。

13 [OCT DOWN] [OCT UP]

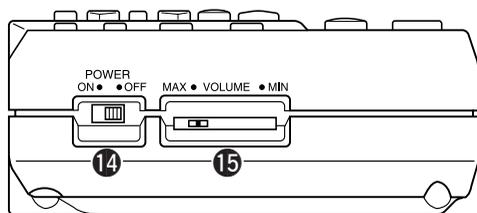
(オクターブダウン/アップ)

QY70の鍵盤ボタンのオクターブを切り替えます。[OCT DOWN]を押すと、鍵盤ボタンが1オクターブ低くなり、[OCT UP]を押すと、鍵盤ボタンが1オクターブ高くなります。

また、コード入力時には、[OCT DOWN]は「オンベース入力」に、[OCT UP]は「シンコペーション入力」にも使用します。

サイドパネル

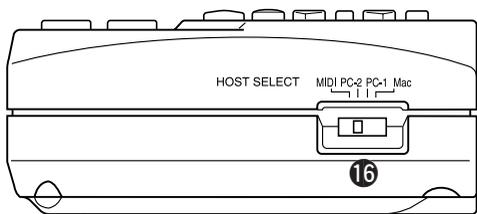
左サイド



14 POWER ON/OFF (電源)スイッチ
QY70の電源オン/オフを切り替えるスイッチです。

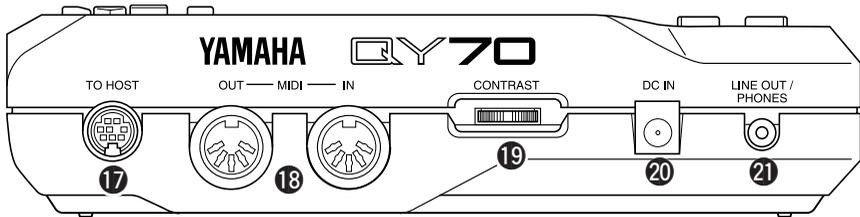
15 VOLUME (ボリューム)スライダー
QY70のラインアウト/ヘッドフォン端子から出力される音量を調節します。MAXで最大になります。

右サイド



16 HOST SELECT
(ホストセレクト)スイッチ
TO HOST端子にコンピューターを接続した場合、使用するコンピューターに合わせて切り替えるスイッチです。

リアパネル



17 TO HOST(トゥーホスト)端子
QY70とコンピューターを接続する端子です。(15ページ参照)

18 MID(ミディ) 端子

MIDI IN(ミディイン) 端子

外部のMIDI機器からMIDI情報を受信します。外部MIDIキーボードの演奏をQY70に録音する場合や、シーケンサー/リズムマシンを演奏してQY70を同時に演奏させる場合などは、それらの機器のMIDI OUT端子とこの端子を接続します。

MIDI OUT(ミディアウト) 端子

QY70のMIDI情報を外部MIDI機器に送信します。QY70で外部のMIDI機器をコントロールしたい場合は、外部機器のMIDI IN端子とこの端子を接続します。

19 CONTRAST(コントラスト)コントロール

ディスプレイのコントラスト(明るさ)を調節します。

20 DC IN(電源アダプター接続) 端子

別売のACアダプター(PA-3B)を使用する場合に接続する端子です。

21 LINE OUT/PHONES(ラインアウト/ヘッドフォン) 端子

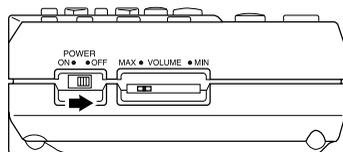
外部スピーカーやミキサーなどに音声信号を出力したり、ヘッドフォンを接続する端子です。

電源の準備

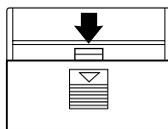
QY70は電源として、単3乾電池6本、または別売のACアダプター(PA-3B)をご利用いただけます。

乾電池をご使用になる場合

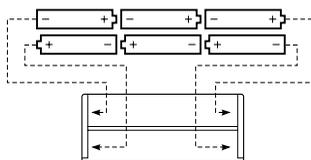
- 1 QY70本体のPOWERスイッチがOFFになっていることを確認します。



- 2 本体裏側のバッテリーカバーを取り外します。



- 3 イラストを参考に、乾電池の+/-を間違えないように新しい乾電池を入れます。



- 4 バッテリーカバーを閉めます。

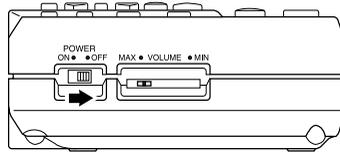
乾電池が消耗して寿命が近づいてくると、ディスプレイに“ Power Batt. Low ”というメッセージが表示されます。(メッセージはいずれかのボタンを押すと消えますが、約1分経過すると再び表示されます。)すぐに乾電池を6本とも新しいものに交換してください。

乾電池は新しいものと古いもの、種類の違うもの(アルカリとマンガンなど)、メーカーの違うものを一緒に使用しないでください。

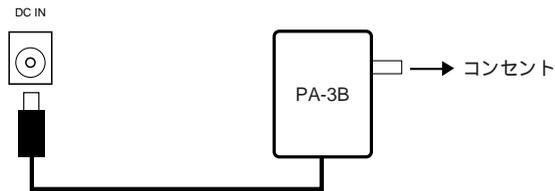
QY70の電池寿命は、アルカリ電池で約5時間です。マンガン電池は、電池寿命が短いのでおすすめできません。

ACアダプターをご使用になる場合

- 1 QY70本体のPOWERスイッチがOFFになっていることを確認します。



- 2 別売のACアダプター(PA-3B)をリアパネルのDC IN端子に接続してください。
- 3 ACアダプターをコンセントに接続してください。



ACアダプターは、必ず別売のPA-3Bをお使いください。他のACアダプターを使用した場合、故障や発熱などの原因となり、大変危険です。

電源は、必ずAC100Vを使用してください。

接続の方法

❗ 接続は、必ずすべての機器の電源を切った状態で行ってください。

QY70の演奏を聴くには

QY70の最大の特長は「ヘッドフォンとQY70さえあれば、どこでも音楽制作できる」ことです。また、シンプルなオーディオ装置があれば、スピーカーで鳴らすこともできます。

ヘッドフォンの接続

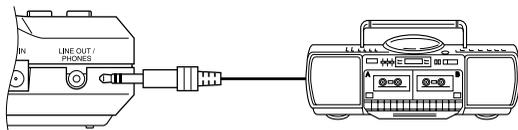
別売のヘッドフォン(ステレオミニプラグ)を、リアパネルのLINE OUT / PHONES端子に接続します。



ヘッドフォンの音量はVOLUMEスライダーで調節します。

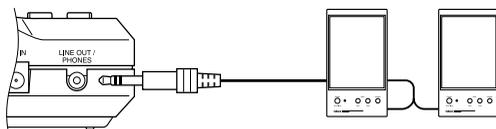
CDラジカセとの接続

リアパネルのLINE OUT / PHONES端子とCDラジカセの入力端子(LINE INなど)を付属のオーディオ変換ケーブルで接続します。



キーボードアンプとの接続

リアパネルのLINE OUT / PHONES端子とキーボードアンプの入力端子(INPUT など)を付属のオーディオ変換ケーブルで接続します。



QY70を外部機器(MIDI機器やコンピューターなど)と接続することにより、さらに発展的な使用が可能です。

MIDIキーボード/シンセサイザーとの接続

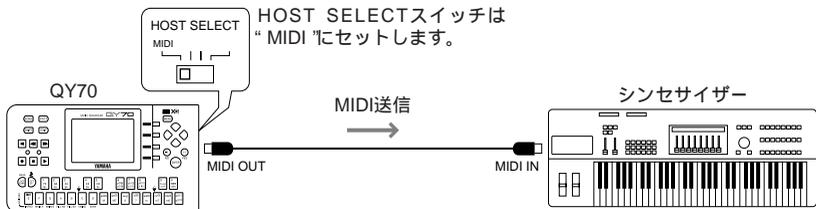
QY70のMIDI IN端子と、MIDIキーボードのMIDI OUT端子をMIDIケーブルで接続します。

MIDIキーボードを使用すると、リアルタイムレコーディングやオートアкомпニメント機能のフィンガードコード入力(リファレンス編20ページ参照)が簡単にできるようになります。



QY70のMIDI OUT端子と、シンセサイザーのMIDI IN端子をMIDIケーブルで接続します。

QY70のMIDI情報(曲データの演奏情報)を接続したシンセサイザーの音色を使って再生できます。



MIDIデータファイラーMDF2との接続

QY70のMIDI OUT端子と、MDF2のMIDI IN端子をMIDIケーブルで接続します。

QY70で作成した曲データを、MDF2を使ってフロッピーディスクに保存することができます。



QY70のMIDI IN端子と、MDF2のMIDI OUT端子をMIDIケーブルで接続します。

フロッピーディスクに保存していたQY70のデータや他の機種データを、QY70に読み込んだり、演奏させたりできます。



MIDIシーケンサーとの接続

QY70を外部シーケンサーの音源として使う場合は、これら外部シーケンサーのMIDI OUT端子とQY70のMIDI IN端子とをMIDIケーブルで接続します。



* MIDIケーブルはMIDI規格のものをお使いください。また、MIDIケーブルは15mが限度とされています。これ以上長いケーブルの使用は、誤動作などトラブルの原因となります。

コンピューターとの接続

QY70をコンピューターと接続することにより、QY70で作成した曲データをバルク送受信してコンピューターで管理したり(QYデータファイラー取扱説明書参照)、QY70をコンピューター(シーケンスソフト)の音源として使用することができます。

QY70とコンピューターを接続する場合、次の2種類の接続方法があります。

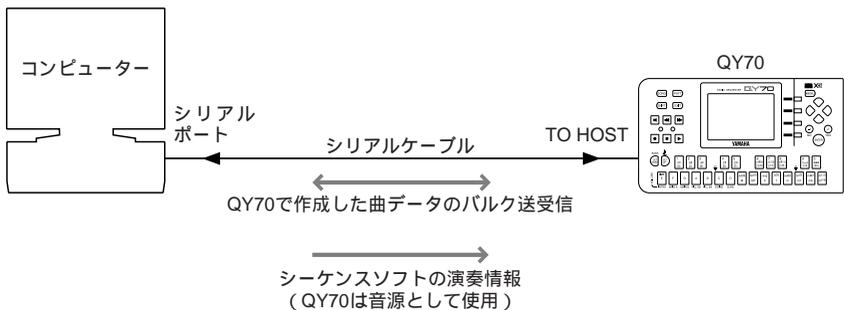
コンピューターのシリアルポートとQY70のTO HOST端子とを直接接続する。

MIDIインターフェースを通じてコンピューターのシリアルポートとQY70のMIDI端子とを接続する。

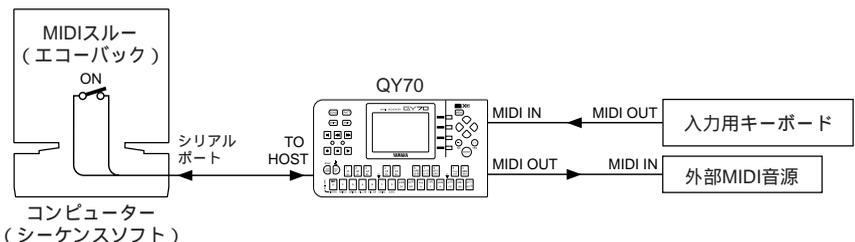
シリアルポートとTO HOST端子とを直接接続

コンピューターとQY70の接続および信号の流れは、どのコンピューターでも基本的に同じです。(下図参照)

コンピューターのシリアルポートおよびクロックの違いにより、使用ケーブル、ホストセレクトスイッチの設定位置が異なります。(16ページ参照)



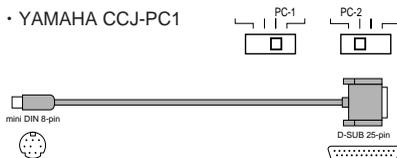
QY70をTO HOST端子からコンピューターに接続し、さらにQY70に入力用MIDIキーボードや外部MIDI音源を接続する場合、コンピューターのシーケンスソフト側でMIDIスルー(エコーバック)をONにしてください。



PC-9801、PC-9821シリーズをお使いの方は

シリアルケーブルYAMAHA CCJ-PC1またはCCJ-PC 1NF(または一般的なD-SUB 25P MINI DIN 8P クロスケーブル)で、コンピューターのRS-232C端子とQY70のTO HOST端子とを接続します。QY70のホストセレクトスイッチは、Windows3.1をお使いの場合“PC-1”に、Windows95をお使いの場合“PC-2”にセットします。

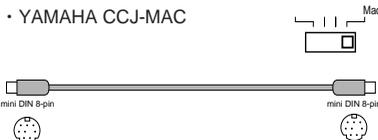
・ YAMAHA CCJ-PC1



Macintoshシリーズをお使いの方は

シリアルケーブルYAMAHA CCJ-MAC(または一般的なシステムペリフェラルケーブル 8ピン)で、コンピューターのRS-422端子(モデムまたはプリンター端子)とQY70のTO HOST端子とを接続します。QY70のホストセレクトスイッチは“Mac”にセットします。

・ YAMAHA CCJ-MAC

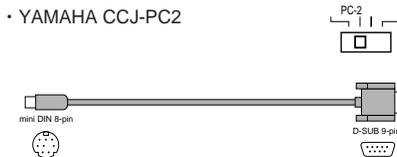


* 使用するシーケンスソフトウェア側で、MIDIインターフェースのクロックを1MHzに設定してご使用ください。詳しくは、お使いになるソフトウェアの説明書をよくお読みください。

IBM-PC/AT互換機をお使いの方は

シリアルケーブルYAMAHA CCJ-PC2(または一般的なD-SUB 9P MINI DIN 8P クロスケーブル)で、コンピューターのRS-232C端子とQY70のTO HOST端子とを接続します。QY70のホストセレクトスイッチは“PC-2”にセットします。

・ YAMAHA CCJ-PC2



* D-SUB 25P MINI DIN 8Pクロスケーブルをお使いの場合は、変換プラグアダプターでコンピューター側をD-SUB 9Pにして接続してください。

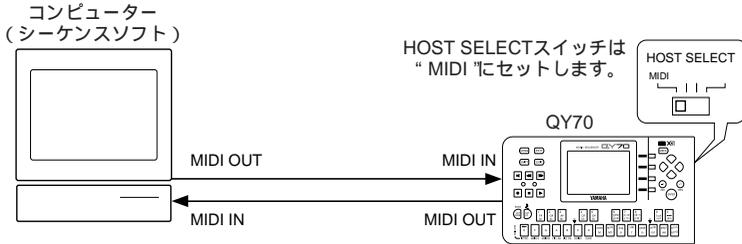


使用するコンピューターやシーケンスソフトウェアでの必要なMIDI設定については、それぞれの取扱説明書をお読みください。

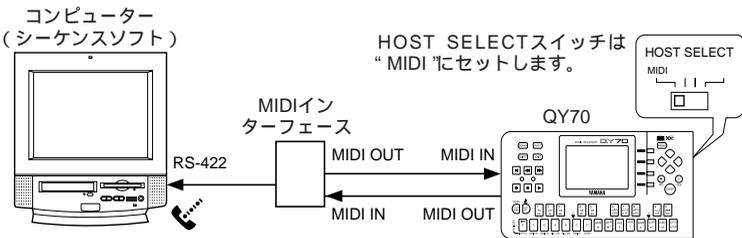
PC-9801/9821シリーズ、IBM-PC/AT互換機でWindows95、またはWindows3.1をお使いの場合は、コンピューターにMIDIドライバーをインストールする必要があります。(18 ページ MIDIドライバーについて参照)

MIDIインターフェースを通じてシリアルポートとMIDI端子とを接続

MIDIインターフェースを装備したコンピューターの場合は、コンピューター側のMIDI IN/OUT端子とQY70のMIDI OUT/IN端子とを下図のように接続します。



Macintoshシリーズに外付けのMIDIインターフェースを使用する場合は、コンピューターのRS-422端子(モデムまたはプリンター端子)にMIDIインターフェースを接続し、MIDIインターフェースのMIDI IN/OUT端子とQY70のMIDI OUT/IN端子とを下図のように接続します。



- * ホストセレクトスイッチを" MIDI "に設定している場合は、TO HOST端子の入出力は無視されます。
- * MIDIケーブルはMIDI規格のものをお使いください。MIDIケーブルは15mが限度とされています。これ以上長いケーブルをご使用になりますと、誤動作などトラブルの原因となりますのでご注意ください。
- * Macintoshシリーズをお使いの場合、使用するMIDIインターフェースの設定に合わせて、アプリケーションソフトウェア側で、MIDIインターフェースのクロックを設定してください。詳しくは、お使いになるソフトウェアの説明書をよくお読みください。



接続が完了したら、再生装置(アンプ付スピーカーやアンプなど)のボリュームを下げ、MIDIの送信側(シーケンサー、MIDIキーボードなど)MIDIの受信側(QY70)再生装置(アンプ内蔵スピーカーなど)の順番で電源を入れます。また電源を切る場合は、逆の順番で行います。

MIDIドライバーについて

NEC PC-9801/9821シリーズまたはIBM-PC/AT互換機で、Windows95またはWindows3.1をお使いの場合、同梱の「QY Data Filer」のラベルが貼ってあるフロッピーディスクからMIDIドライバーをコンピューターにインストールする必要があります。

Windows95をお使いの場合はYamaha CBX Driver for Windows95を、Windows3.1をお使いの場合はYamaha CBX-T3 Driverを、それぞれ下記の手順に従ってインストールしてください。(それぞれのMIDIドライバーについての詳細は、各MIDIドライバーのフォルダに入っているReadmeファイルをご参照ください。)

* 以下の説明は、お客様がWindowsの基本的な操作について、ご理解いただいていることを前提に説明しています。Windowsの操作に関することは、Windowsの取扱説明書をご参照ください。

Yamaha CBX Driver for Windows95のインストール

- 1 「QY70 Data Filer for Windows」のフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。
- 2 コントロールパネルの中の「ハードウェア」をダブルクリックします。
ハードウェアウィザードが開きます。
- 3 [次へ] をクリックします。
- 4 新しいハードウェアの検出の画面で「いいえ」を選び、[次へ] をクリックします。
- 5 インストールするハードウェアの種類を選択画面で、「サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ」を選択し、[次へ] をクリックします。
- 6 ハードウェアのモデル選択の画面で[ディスク使用...(H)]ボタンをクリックします。
- 7 「配付ファイルのコピー元」に、フロッピーディスクを挿入したドライブ名と、ドライバーの入っているディレクトリ名をタイプ入力します。

たとえば、Aドライブにフロッピーを挿入している場合は
A:¥MIDIDRV

Bドライブにフロッピーを挿入している場合は
B:¥MIDIDRV

とタイプ入力します。[OK]をクリックします。

8 デバイスの選択の画面に「Yamaha CBX Driver for Windows 95」が表示されます。[OK]をクリックします。

9 [完了] ボタンをクリックします。
ドライバのコピーが行われます。

10 ドライバのコピーが終了すると、「YAMAHA CBX Driver Setup」ダイアログボックスが表示されます。使用するCOMポートを選択し、[OK]をクリックします。(QY70は、マルチポート機能をサポートしていません。)

11 MIDIドライバーを有効にするために、[はい] ボタンをクリックして、再起動します。

これでMIDIドライバーのインストールは完了です。

QY70のHOST SELECTスイッチが* PC-2 にセットされていることを確認してください。

Yamaha CBX-T3 Driverのインストール(Windows 3.1用)

1 「QY70 Data Filer for Windows」のフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。

2 プログラムマネージャウィンドウで、メイングループウィンドウの中の「コントロールパネル」をダブルクリックします。
コントロールパネルウィンドウが表示されます。

3 コントロールパネルウィンドウの中の「ドライバー」アイコンをダブルクリックします。
「ドライバーの設定」ダイアログボックスが表示されます。

4 [追加] ボタンをクリックします。
「ドライバーの追加」ダイアログボックスが表示されます。

- 5 「一覧にない、または更新されたドライバー」が反転表示されている状態で、[OK] をクリックします。
「ドライバーの組み込み」ダイアログボックスが表示されます。
- 6 フロッピーディスクを挿入したドライブ名と、ドライバーの入っているディレクトリ名を、タイプ入力します。

たとえば、IBM-PC/AT互換機のAドライブにフロッピーを挿入している場合は
A:¥IBMPC

NEC PC9801/9821シリーズのBドライブにフロッピーを挿入している場合は
B:¥NECPC98
とタイプ入力します。

[OK] をクリックします。
「一覧にない、または更新されたドライバーの追加」ダイアログボックスが表示されます。
- 7 「Yamaha CBXT3 Serial Driver」が反転している状態で、[OK] をクリックします。
「Yamaha CBX-T3 Serial Driver Setup」ダイアログボックスが表示されます。
- 8 使用するCOMポートを選択し、[OK] をクリックします。
「システム設定の変更」ダイアログボックスが表示されます。
- 9 MIDIドライバーを有効にするために、[再起動する] ボタンをクリックします。

これでMIDIドライバーのインストールは完了です。

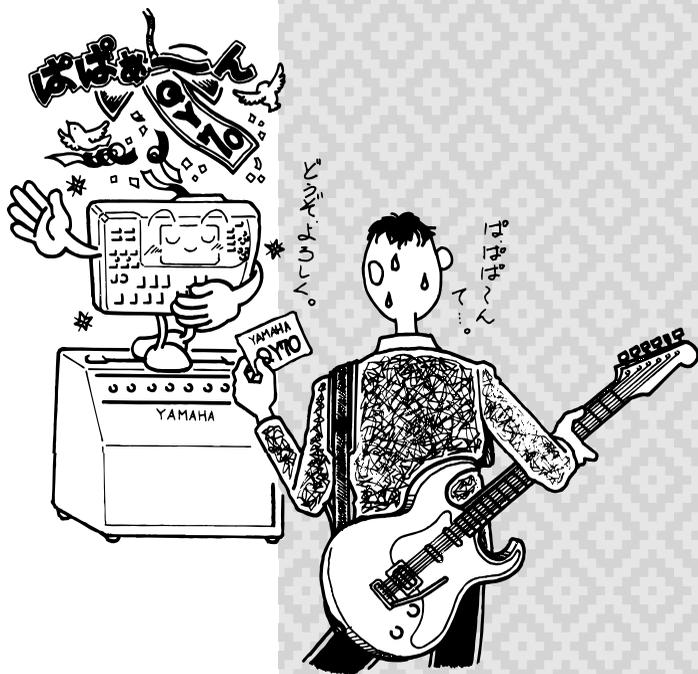
IBM-PC/AT互換機と接続している場合は、QY70のHOST SELECTスイッチが「PC-2」に、NEC PC-9801/9821シリーズと接続している場合は「PC-1」にセットされていることを確認してください。

第1章

この章では、QY70を使ってできることや、QY70の基本的なしくみを解説します。

QY70とは? 22ページ

QY70の基本画面について 24ページ



QY70とは？

さあ、バンドやろう！

と思っただけれど、「周りに音楽をやっている人が見当たらない」なんてことはよくある話。でもQY70があれば大丈夫！バンドメンバーを集める前に、仮想のバンドを組んで練習するのもいいし、一人静かに作曲/デモテープ作りに明け暮れるのもいい。



QY70は本体にオリジナルソングを20曲録音できる。
メンバーがいない部分は楽譜を打ち込んでQY70に演奏させよう。

打ち込みって面倒くさい？

QY70は、やさしいインターフェイスが自慢のシーケンサー。打ち込みだって楽勝。たとえば、バックアップは基本になるパターン(1~2小節の小さなもの)を曲の構成に合わせて並べるだけ。もちろん、パターンは自分で作ることもできる。QY70の操作はシンプルで分かりやすく、豊富で便利なジョブ機能が打ち込み作業をバックアップしてくれる。

やさしいインターフェイスと豊富なエディット機能が打ち込み作業をバックアップ。

プリセットパターン(あらかじめ用意されている伴奏スタイル)は768種類。128種類の伴奏スタイルにそれぞれイントロ、メイン、フィルインなどのセクションが6つずつ用意されている。QY70のリズム隊は、どんな音楽ジャンルもこなせるスーパーセッションプレイヤー。

QY70があれば

自分のパートをカラオケみたいに練習できる。好きなミュージシャンのバンドスコアを手に入れて、自分の演奏パート以外をQY70のソングに打ち込もう！ 打ち込み演奏をバックに、密かに特訓だ！

16シーケンストラック+8パターントラック、最大24人編成の仮想ビッグバンドが結成できる。(最大同時発音数 音源部：32音、シーケンサー部：64音)

ソングデータ

の打ち込みが終わったらミキシング。ドラム・ベース・キーボードなどパート全体の音量バランスを整えよう。パン(サウンド定位)やエフェクトの深さも思い通りに設定できるので、気分はもうレコーディングエンジニア。

パートごとにボリューム、パン、エフェクトデプスなどが設定できるため、きめ細かなミキシングが可能。

パソコンを使ったDTM

(デスクトップミュージック)にもQY70は威力を発揮する。QY70の内蔵音源は、GM(General MIDI)規格をヤマハが独自に拡張したXGフォーマットに対応。QY70で作った曲データはもちろん、パソコンで作ったシーケンスデータをXGの高音質サウンドで再生することだってできる。また、QY70とパソコンの間でシーケンスデータ(SMF:スタンダードMIDIファイル)をやり取りしたり、作曲/打ち込みデータ管理することもできる。

MIDI IN/OUT端子に加え、コンピューターとダイレクトに接続できるTO HOST端子を装備。MIDIインターフェースは不要。



GMシステムレベル1

「GMシステムレベル1」は、メーカーや機種が異なった音源でも、ほぼ同じ系列の音色で演奏が再現されることを目的に設けられた、音源の音色配列やMIDI機能に関する一定の基準のことで、「GMシステムレベル1」に対応した音源やソングデータには、このGMマークがついています。QY70はGMシステムレベル1に対応しています。

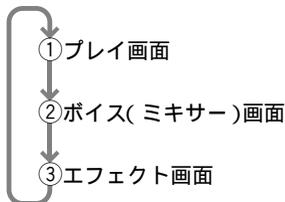
XG XG

「XG」は、音色配列に関する「GMシステムレベル1」をより拡張し、時代と共に複雑化、高度化していくコンピューター周辺環境にも対応させ、豊かな表現力とデータの継続性を可能としたヤマハの音源フォーマットです。「XG」では、音色の拡張方式やエディット方式、エフェクト構成やタイプなどを規定して、「GMシステムレベル1」を大幅に拡張しました。QY70はXGに対応しています。

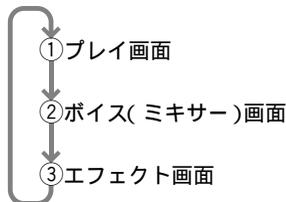
QY70の基本画面について

QY70は、多彩な機能が効率的に活用できるよう、大きく2つのモード(ソングモード/パターンモード)に分類されています。そして、それぞれのモードは3つの基本画面で構成されています。

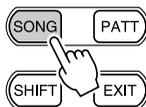
SONG ソングモード



PATT パターンモード



SONG ソングモード



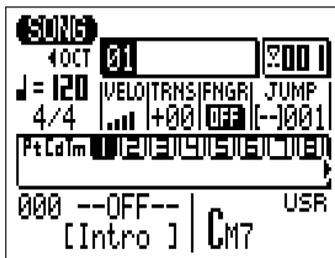
[SONG] を押すたびに、ディスプレイ表示が下の① ② ③ ① ②...の順番で切り替わります。



[SHIFT] を押しながら [SONG] を押すと、① ③ ② ① ③...の順番で切り替わります。

② ボイス(ミキサー)画面、③ エフェクト画面で [EXIT] ボタンを押すと、① プレイ画面に戻ります。

① プレイ画面



ソングの再生(各トラックのソロ/ミュートもOK)、ソングの録音(リアルタイム録音/ステップ録音)などを行う、QY70の基本画面です。電源を入れると、この画面が表示されます。

この画面から [MENU] を押して...

ソングのプレイエフェクト

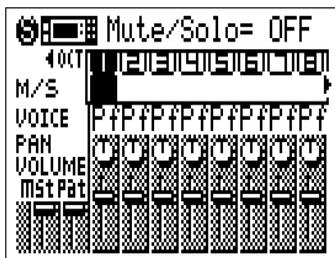
ソングジョブ

ソングエディット

ユーティリティ(パターンモードと共通)

の画面に切り替えることができます。

② ボイス(ミキサー)画面



ソングの各トラックのボイス(音色)、ボリューム、パンなどをミキサー感覚で設定できる画面です。

この画面から[MENU]を押して...

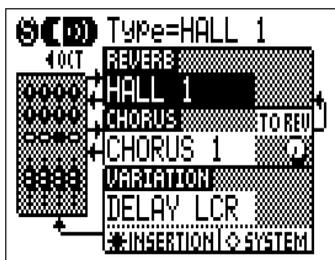
エフェクトセンドレベル
(エフェクトのかかり具合)

ボイスエディット(音色のエディット)

ドラムエディット(ドラム音色のエディット:
ドラムボイス[Ds1、Ds2]が割り当てられた
トラックのみ)

の画面に切り替えることができます。

③ エフェクト画面



ソングにかけるエフェクト(リバーブ/コーラス/バリエーション)のタイプやエフェクトパラメーターを設定する画面です。

この画面から[MENU]を押して...

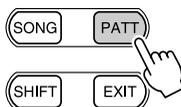
リバーブエディット
(リバーブのパラメーター設定)

コーラスエディット
(コーラスのパラメーター設定)

バリエーションエディット
(バリエーションエフェクトのパラメーター設定)

の画面に切り替えることができます。

パターンモード



[PATT]を押すたびに、ディスプレイ表示が下の① ② ③ ① ②...の順番で切り替わります。



[SHIFT]を押しながら[PATT]を押すと、① ③ ② ① ③...の順番で切り替わります。

②ボイス(ミキサー)画面、③エフェクト画面でEXITボタンを押すと、①プレイ画面に戻ります。

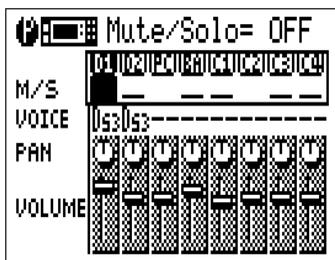
① プレイ画面



伴奏パターンの再生(各トラックのソロ/ミュートもOK)、ユーザーパターンの録音/エディットなどを行う画面です。

この画面から[MENU]を押して...
 パターンのプレイエフェクト
 パターンジョブ
 パターンエディット
 ユーティリティ(ソングモードと共通)
 の画面に切り替えることができます。

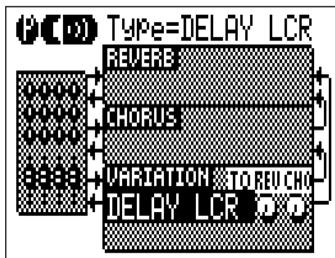
② ボイス(ミキサー)画面



パターンの各トラックのボイス(音色)、ボリューム、パンなどをミキサー感覚で設定できる画面です。

この画面から[MENU]を押して...
 エフェクトセンドレベル
 (エフェクトのかかり具合)
 ボイスエディット(音色のエディット)
 ドラムエディット
 (ドラム音色のエディット: ドラムボイス
 [Ds3]が割り当てられたトラックのみ)
 の画面に切り替えることができます。

③ エフェクト画面



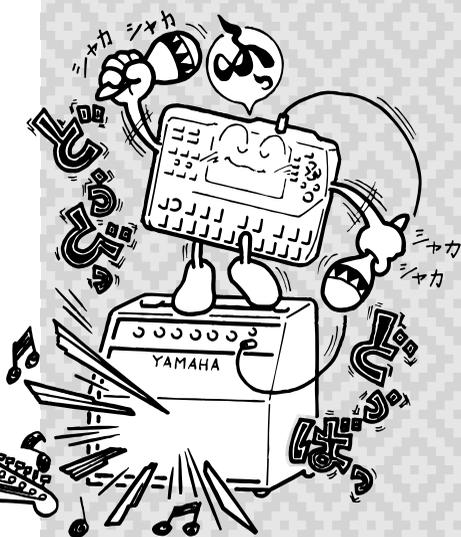
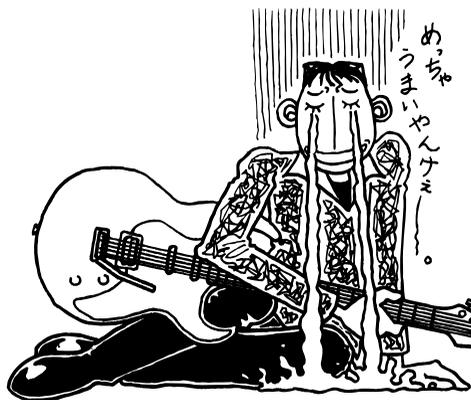
パターンにかけるエフェクト(バリエーションエフェクト)のタイプやエフェクトパラメーターを設定する画面です。

この画面から[MENU]を押して...
 バリエーションエディット
 (バリエーションエフェクトのパラメーター設定)
 の画面に切り替えることができます。

第2章

QY70には、3曲のデモソングと128種類の伴奏スタイルがプリセットされています。(伴奏スタイルには、それぞれイントロ、メイン、フィルインなどのパターンが6つずつ用意されています。)
QY70のしくみをさらに理解するために、まず、デモソングとプリセットスタイルを聴いてみましょう。

デモソングを聴いてみよう	28ページ
ソングの構成を理解しよう	31ページ
プリセットスタイルを聴いてみよう	36ページ
スタイルの構成を理解しよう	39ページ

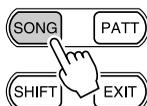


デモソングを聴いてみよう

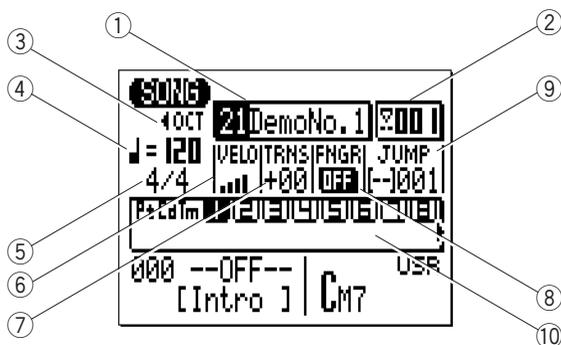
QY70のデモソングは、ソングナンバー21～23に3曲入っています。
ここでは、ソングナンバー21を選んで聴いてみましょう。



[SONG] を押して、ディスプレイをソングモードのプレイ画面に切り替えます。



ソングモード・プレイ画面解説



- ① ソングナンバー & ソングネーム
- ② 小節ナンバー(001～999)
- ③ オクターブ(-4■■■■～0～+4■■■■)
QY70の鍵盤ボタンのオクターブを設定します。
- ④ テンポ(♩=25～300)
- ⑤ 拍子
(1/16-16/16、1/8-16/8、1/4-8/4)
- ⑥ ベロシティ(10段階、R1～R4)
QY70の鍵盤ボタンのベロシティ(鍵盤ボタンを押さえた時に鳴る音の大きさ)を設定します。
- ⑦ トランスポーズ(-24～0～+24)
シーケストラックの音程を、-24～0～+24の範囲(単位：半音)で設定します。
- ⑧ フィンガードコードオン/オフ
コードを入力する時に、コードを正確に押さえるか(オン)、QY70の簡単な入力方法を使うか(オフ)を設定します。
- ⑨ ジャンプモード
(「--」(オフ)、「■」,「H」)
ジャンプロケーション(001～999)ソング停止「■」時、またはリセット「H」時に、好きな小節位置にジャンプさせます。左側のジャンプモードで「■」または「H」を選び、右側のジャンプロケーションでジャンプ先の小節位置を設定します。
- ⑩ トラック表示(31ページ参照)
掲載されている画面は、すべて操作説明のためのもので、実際の画面と異なる場合があります。



デモソング(ソングナンバー21～23)を選択時は、①ソングナンバー以外のパラメーターは変更できません。

2

カーソル(▲▼◀▶)ボタンを押して、カーソルをディスプレイ最上段のソングナンバーに移動します。



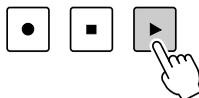
3

[+1] または [-1] ボタンを押して、ソングナンバー「21」を選びます。ナンバーの右側にソングネームが表示されます。



4

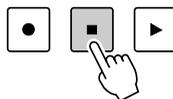
[▶] を押してデモソングを再生します。



デモソングは、QY70の機能をフルに活用して制作されたものです。デモソングを聴けば、QY70の高度な表現力と曲作りの可能性の高さを実感していただけるでしょう。

5

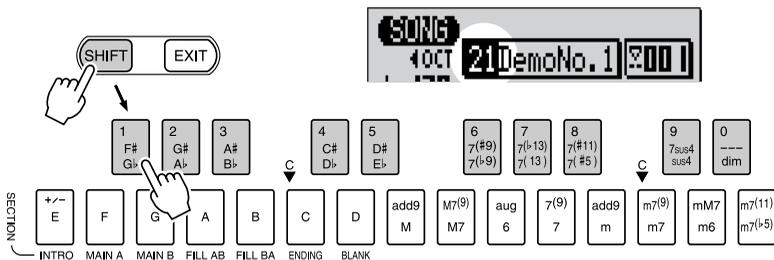
[■] を押してデモソングを停止します。



[SHIFT] を使えばとても便利 !

[SHIFT] を押しながら、他のボタンを押すとQY70を効率的に操作することができます。

たとえば、ソングナンバーを選ぶ時に、[SHIFT] を押しながら、黒鍵 1 ~ 0) ボタンを押せば、ナンバーをダイレクトに入力できます(ナンバー点滅)。

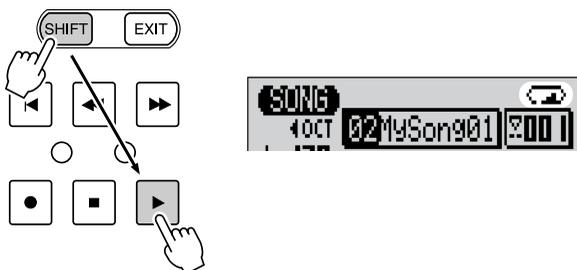


ナンバー入力後 ENTER を押せば、ナンバーが確定します(ナンバー点灯)。小さなナンバーから大きなナンバーに変更する場合など、素早く変更できるのでとても便利です。



ループ再生

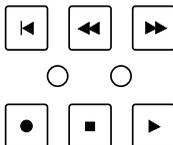
[SHIFT] を押しながら [▶] を押すと、ループ再生 (繰り返し再生) が始まります。ループ再生を開始するとディスプレイ右上に「」が表示され、ソングが終わると自動的にソングの先頭に戻って繰り返し再生します。



この操作によるループ再生は、デモソング(ソングナンバー21~23)以外の曲でのみ可能です。デモソングの場合、[■] [STOP] を押さない限り、自動的にソングナンバー 21 22 23 21... とループ再生します。

シーケンサーボタンについて

ソング/パターンを、再生/録音する時に使用します。テープレコーダーと同じ感覚で使用できます。



- [●] [REC) 録音スタンバイ状態にします。
- [■] [STOP) 再生/録音を停止します。
- [▶] [PLAY) 再生/録音を開始します。
- [◀◀] [TOP) 曲の先頭まで戻します。
- [◀◀] [REWIND) 曲の現在位置を1小節単位で戻します。
- [▶▶] [FORWARD) 曲の現在位置を1小節単位で進めます。



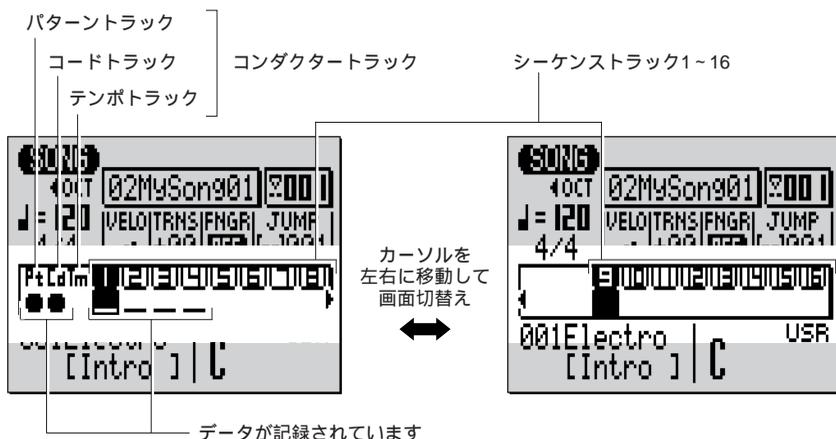
[■] [STOP)、[◀◀] [TOP) にジャンプ機能を設定することができます。この機能を使うと、ワンタッチで特定の小節から再生することができます。ソングの一部を繰り返し聴きながら録音やエディットを行う場合に便利です。

デモソング(ソングナンバー21~23)を選択時は、[■] [STOP)、[▶] [PLAY) 以外は使用できません。

ソングの構成を理解しよう

QY70のソングは、シーケンストラック(16トラック)とコンダクタートラック(パターントラック、コードトラック、テンポトラック)で構成されています。ここでは、QY70の画面表示の例を見ながら、ソングのトラック構成について解説します。

ソングモード・プレイ画面



たとえば上の画面では、シーケンストラックのうち「**1**」が表示されている1~4トラックと、コンダクタートラックのうち「**■**」が表示されているパターントラックとコードトラックに、データが記録されていることを表しています。

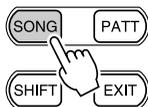
シーケンストラックとは、ソングの各パート演奏を個別に記録するトラックです。「1トラックにピアノ、2トラックにベース、3トラックにギター、...」といったように、簡単にアンサンブル曲を作ることができます。

各シーケンストラックにどんなボイス(音色)が割り当てられているかは、ソングモードのボイス(ミキサー)画面で見ることができます。

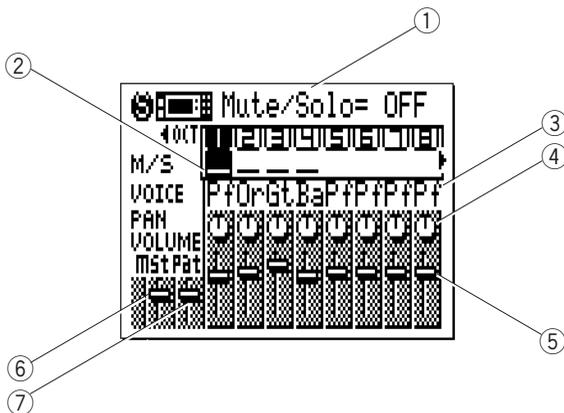
コンダクタートラックとは、ソングの伴奏パート(ドラム、ベース、リフなど)を手軽に作ることができるトラックです。パターントラックで伴奏パターン(プリセットも用意されています)の種類を選び、コードトラックで伴奏パターンのコード進行を設定します。テンポトラックにはテンポチェンジデータを記録します。

伴奏パターンには、細かくドラム、ベース、コード楽器などのトラックがあります。(39ページ参照)

[SONG] を押して、ディスプレイをソングモードのボイス(ミキサー)画面に切り替えます。

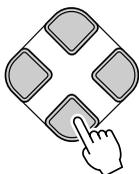


ソングモード・ボイス(ミキサー)画面解説



- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ① カーソルで選択されているパラメーターの設定値 ② M/S (ミュート/ソロ) ③ ボイス ④ パン(Random、Left63 ~ Center ~ Right63) | <ul style="list-style-type: none"> ⑤ シーケンストラックボリューム (000 ~ 127) ⑥ マスターボリューム(000 ~ 127) ⑦ パターントラックボリューム(000 ~ 127) |
|--|--|

カーソルを1トラックのVOICEの位置に移動します。ミキサー内にはボイスのカテゴリ(種類)が表示され、最上段にボイスカテゴリー、プログラムナンバー(1 ~ 128)、ボイス名が表示されます。



この例では1トラックにプログラムナンバー4のボイス「HnkyTonk(ホンキートンクピアノ)」が割り当てられています。

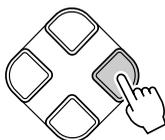
ボイスカテゴリーリスト

Pf	Piano(ピアノ)	Pd	Synth Pad(シンセパッド)
Cp	Chromatic Percussion (クロマチックパーカッション)	Fx	Synth Effects (シンセエフェクト)
Or	Organ(オルガン)	Et	Ethnic(エスニック)
Gt	Guitar(ギター)	Pc	Percussive(パーカッシブ)
Ba	Bass(ベース)	Se	Sound Effects (サウンドエフェクト:効果音)
St	Strings(ストリングス)	Sfx	SFX(XGサウンドエフェクト)
En	Ensemble(アンサンブル)	Sfk	SFX Kit(サウンドエフェクトキット)
Br	Brass(ブラス)	Dr	Drum Kit(ドラムキット)
Rd	Reed(リード)	Ds1	Drum Set1(ドラムセット1)
Pi	Pipe(パイプ)	Ds2	Drum Set2(ドラムセット2)
Ld	Synth Lead(シンセリード)		

Ds1、Ds2は、各ドラム楽器音のエディットが可能です。
(リファレンス編80ページ参照)

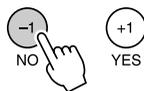


カーソルを右に移動すると、シーケンストラック2~16についても、どんなボイスが使われているか、確認できます。



ある特定のトラックの演奏内容を、再生しながら確認したい場合は、ミュート/ソロ機能が便利です。カーソルをトラックのM/Sの位置に移動します。この時、最上段にミュート/ソロ設定が表示されます。

[- 1]を押すと、ミュート機能がはたらき、そのトラックはミュート(消音)されます。もう一度押すと「OFF」に戻ります。



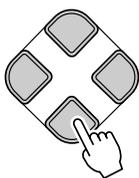
[+ 1] を押すと、ソロ機能がはたらき、そのトラック以外はミュート(消音)されます。もう一度押すと「 OFF 」に戻ります。



ミュート/ソロの設定は再生時の一時的な設定です。実際にソングデータの演奏内容を消去するものではありません。

各トラックの演奏内容を確認したい時や、ベーストラックを録音する際に「ドラムトラックだけを聴きながら入力したい」となどという時に便利な機能です。ミュート/ソロの設定は、プレイ画面の同じカーソル位置でも行えます。

各トラックのパン(左右の定位)を変更したい場合は、変更したいトラックの PAN(つまみ)の位置にカーソルを移動します。この時、最上段に設定値 (Random、Left63 ~ Center(0) ~ Right63)が表示されます。



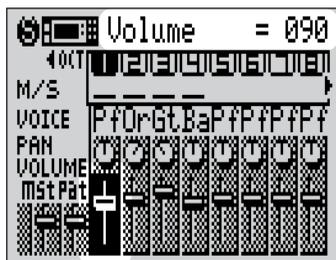
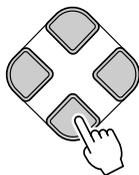
この例では、1トラックのパンはセンター(中央)に設定されています。

Left、またはRightの数値が大きくなるほど、より左、または右に定位します。「Center」に設定すると中央に定位します。「Random」に設定すると、パンはソングの再生中にランダムに動きます。[+ 1] または [- 1] を押して設定値を変更できます。



パンの設定を SHIFT を押しながらダイレクトに数値入力する場合、
 0 = Random、 1 = Left63、 63 = Left01、 64 = Center、 65 = Right01、
 127 = Right63になります。

各トラックのボリュームを変更したい場合は、変更したいトラックのVOLUME (フェーダー)の位置にカーソルを移動します。この時、最上段に設定値(000 ~ 127)が表示されます。[+ 1] または [- 1] を押して設定値を変更できます。

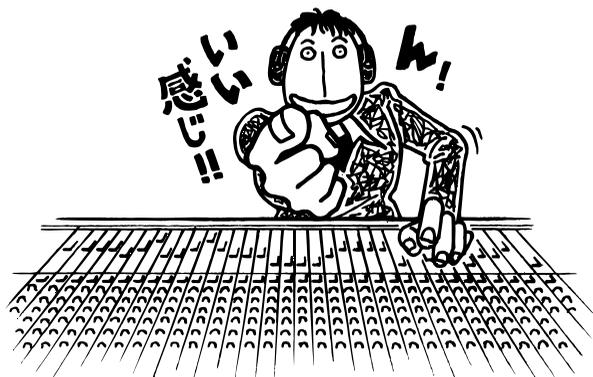


この例では、1トラックのボリュームは90に設定されています。

シーケンストラック1~8の表示画面では、マスターボリューム(Mst)とパターントラックのボリューム(Pat)の設定値を変更することができます。カーソルを移動し、[+ 1] または [- 1] を押して設定値を変更できます。



シーケンストラックの9~16を表示している画面では、マスターボリュームとパターントラックのボリュームは表示されません。



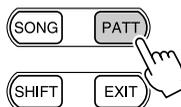
プリセットスタイルを 聴いてみよう

128種類(001~128)

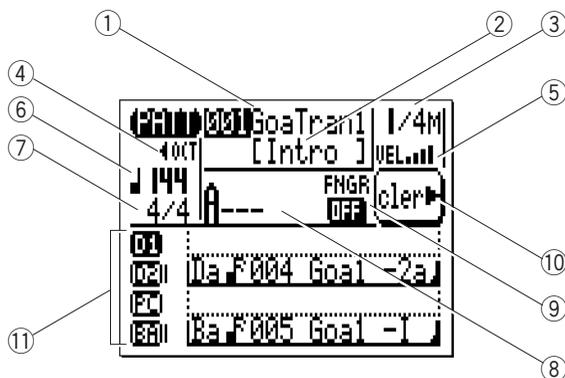
QY70のプリセットスタイルは128種類(スタイルナンバー001~128)あります。
ここでは、スタイルナンバー001『GoaTran1』を選んで聴いてみましょう。

1

[PATT] を押して、ディスプレイをパターンモードのプレイ画面に切り替えます。



パターンモード・プレイ画面解説



- ① スタイルナンバー & スタイルネーム
- ② セクション
- ③ 小節ナンバー
- ④ オクターブ(-4TTTT ~ 0 ~ +4TTTT)
QY70の鍵盤ボタンのオクターブを設定します。
- ⑤ ベロシティ(10段階、R1~R4)
QY70の鍵盤ボタンのベロシティ(鍵盤ボタンを押さえた時に鳴る音の大きさ)を設定します。
- ⑥ テンポ(♩=25~300)
- ⑦ 拍子
(1/16-16/16、1/8-16/8、1/4-8/4)
- ⑧ コードネーム
- ⑨ フィンガードコードオン/オフ
コードを入力する時に、コードを正確に押さえるか(オン)、QY70の簡単な入力方法を使うか(オフ)を設定します。
- ⑩ クリア
トラックのデータをクリアします。
- ⑪ トラック表示(40ページ参照)

2

カーソル(▲▼◀▶)ボタンを押して、カーソルをディスプレイ最上段のスタイルナンバーに移動します。



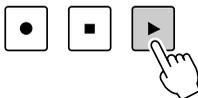
3

[+1] または [-1] ボタンを押して、スタイルナンバー「001」を選びます。ナンバーの右側にスタイルネーム『GoaTran1』が表示されます。



4

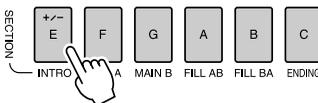
[▶] を押してスタイルを再生します。



5

セクションを切り替えます。

カーソルがスタイルナンバー、またはセクション名の位置にあることを確認して、鍵盤ボタン[INTRO] [MAIN A] [MAIN B] [FILL AB] [FILL BA] [ENDING] を押すとセクションが切り替わります。スタイルを再生しながらセクションを切り替えて曲の流れを作ってみましょう。



セクション切り替えの簡単な例

[INTRO] [MAIN A] [FILL AB] [MAIN B] [FILL BA] [MAIN A] [ENDING]

あるセクションの演奏途中でセクションを切り替えようとする、ディスプレイに「NEXT」が表示され、次に演奏されるセクションを表示します。小節が変わると「NEXT」と表示されたセクションの演奏が始まります。



セクションについて

QY70のスタイルは、曲の構成に応じて伴奏パターンをいろいろと変化させるために、INTRO、MAIN A、MAIN B、FILL AB、FILL BA、ENDINGの6つのセクションを持っています。これらを演奏中に切り替えることによって、自由に伴奏を展開させることができます。

[Intro] イントロ(INTRO)セクション
 イントロ(曲の始まり)の部分です。

[MainA] メイン(MAIN A/B)セクション

[MainB] 曲のメイン部分の演奏で、A/B2つのバリエーションがあります。一般に、メインAは「Aメロ」などの伴奏に、メインBは「サビ」などの伴奏に適しています。

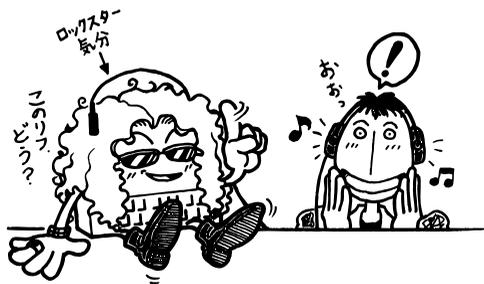
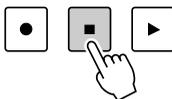
[FillAB] フィルイン(FILL AB/BA)セクション

[FillBA] フィルインは、曲の流れに区切りをつけて演奏を盛り上げます。演奏中にFILL AB、FILL BAボタンを押すと、フィルインが演奏され伴奏パターンにアクセントをつけることができます。メインAからメインBにパターンが移るときはFILL ABが、メインBからメインAにパターンが移るときはFILL BAが適しています。

[Ending] エンディング(ENDING)セクション
 エンディング(曲の終わりの部分)です。

6

[■]を押してスタイルを停止します。

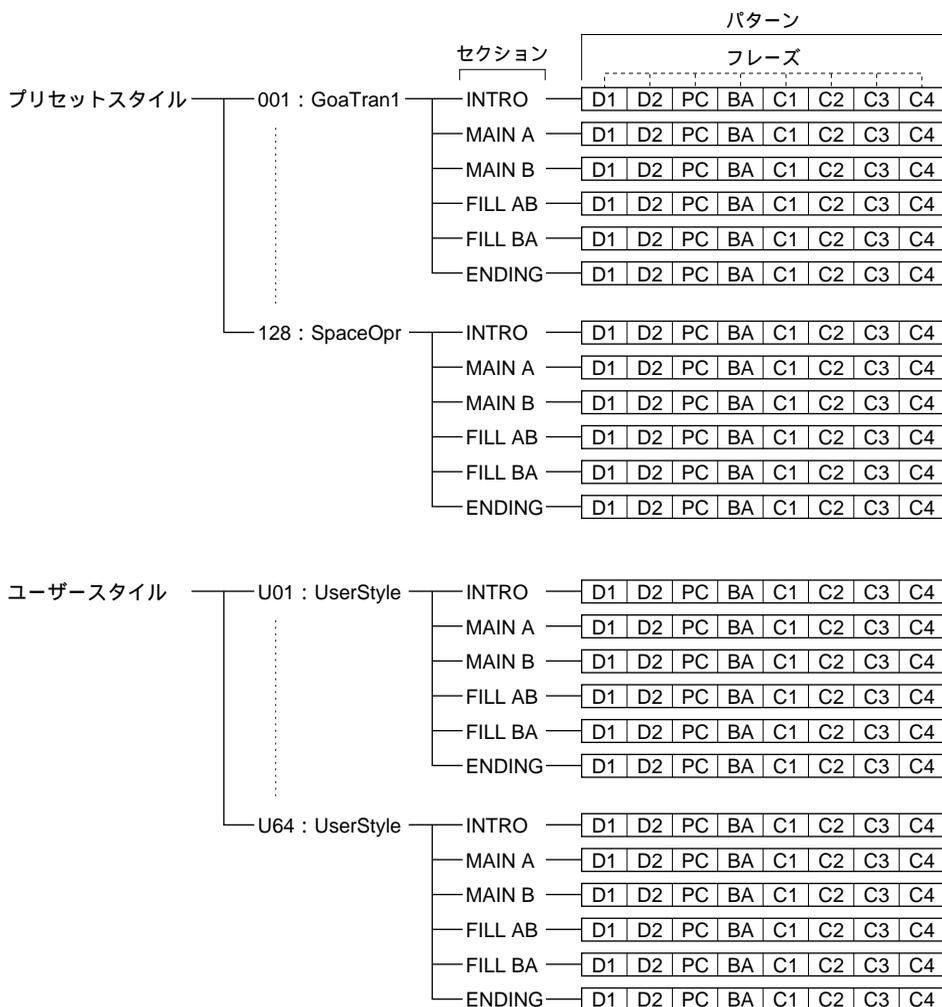


スタイルの構成を理解しよう

QY70の128種類のスタイルは、それぞれINTRO、MAIN A、MAIN B、FILL AB、FILL BA、ENDINGという6つのセクションに分けることができ、ひとつひとつのセクションに伴奏パターンが録音されています。

各パターンは、それぞれD1、D2、PC、BA、C1、C2、C3、C4という8つのフレーズトラックで構成されています。

各トラックには、パターンの最小単位であるフレーズが設定(録音)されています。フレーズとは、パターン各トラックの演奏内容のことです。プリセットで用意されているので、各トラックにフレーズを貼り付けるように設定するだけで、高度なパターンを手軽に作成することができます。

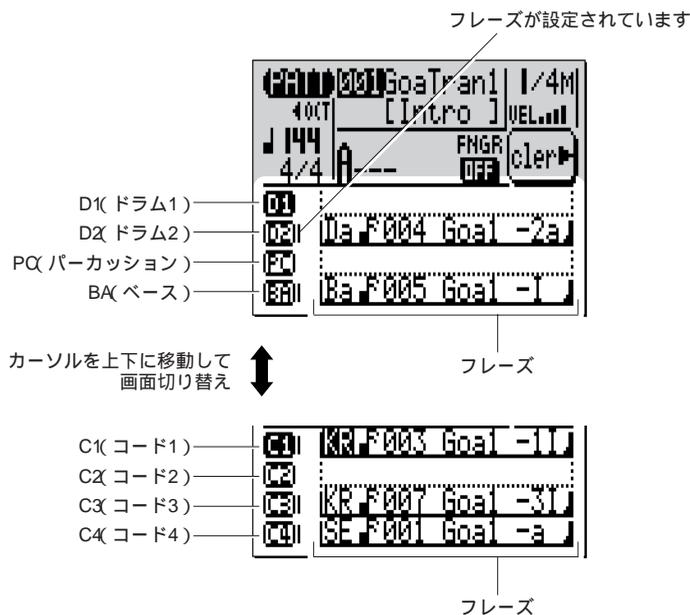




ここでは、スタイルナンバー001『GoaTran1』のINTROセクションに録音されているパターンのトラック構成を見てみましょう。

この曲には、「|」表示されているトラック(D2、BA、C1、C3、C4トラック)にフレーズが設定されています。

パターンモード・プレイ画面



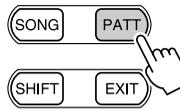
たとえばD2トラックには、フレーズカテゴリー「Da」の、フレーズビート「♪ (16ビート)」_♪、フレーズナンバー「004」_♪、フレーズネーム「Goa1-2a」というフレーズが設定されています。



カーソルを下に移動して、他のパターントラック(BA、C1、C3、C4)にどんなフレーズが使われているか、見てみましょう。

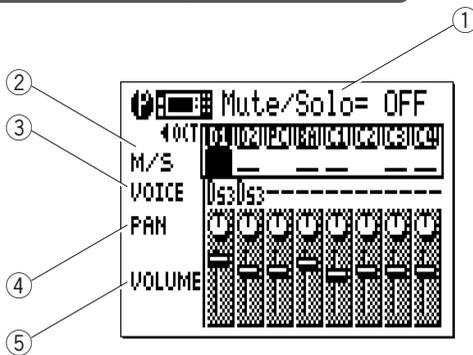


[PATT] を押して、ディスプレイをパターンモードのボイス(ミキサー)画面に切り替えます。



この画面ではパターントラックに関する情報を表示しています。

パターンモード・ボイス(ミキサー)画面解説



- ① カーソルで選択されているパラメータの設定値
- ② M/S(ミュート/ソロ)
- ③ ボイス

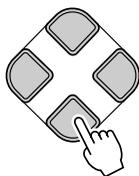
- ④ パン(Random、Left63 ~ Center ~ Right63)
- ⑤ トラックボリューム(000 ~ 127)

ある特定のトラックの演奏内容を確認したい場合は、ミュート/ソロ機能が便利です。カーソルをトラックのM/Sの位置に移動し、ソングモードと同じように操作します。(33、34ページ参照)



パターンモードでのミュートの設定は、そのパターンを使用しているソングにも影響します。

BAトラックのVOICEの位置に「--」と表示されていますが、これはフレーズにもともと設定されているボイスであることを表しています。カーソルをVOICEの位置に移動すると、最上段には「000 [Phrase]」と表示されます。

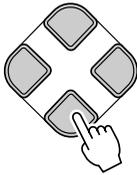


[- 1] または [+ 1] ボタンを押してボイスを変更することができます。この場合、ミキサー内にはボイスのカテゴリー(種類)だけが表示され、最上段にボイスカテゴリー、プログラムナンバー(1~128)、ボイス名前が表示されます。

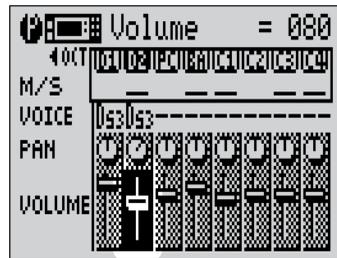
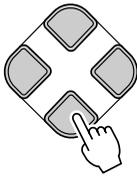


パターンのドラムトラックのボイスカテゴリーには、シーケンストラックにあるDs1/2(ドラムセット1/2)はありません。パターン用のドラムキットにはDs3(ドラムセット3)が用意されています。Ds3は、個々のドラム楽器音のエディットが可能です。

各トラックのパンを変更したい場合は、変更したいトラックのPAN(つまみ)の位置にカーソルを移動し、ソングモードと同じように操作します。(34ページ参照)



各トラックのボリュームを変更したい場合は、変更したいトラックのVOLUME(フェーダー)の位置にカーソルを移動し、ソングモードと同じように操作します。(35ページ参照)





第3章

この章では、実際に楽譜を見ながらプリセットスタイルを使ってソングを組み立て、メロディ演奏を録音する方法を解説します。

プリセットスタイルを使って ソングを組み立てよう	46ページ
メロディ演奏を録音しよう	55ページ



プリセットスタイルを使って ソングを組み立てよう

QY70のプリセットスタイルをもとに、パターントラックとコードトラックを録音して、ソングの骨格を組み立ててみましょう。

サンプル曲は、シンディ・ローパーの『タイム・アフター・タイム』です。使用スタイルは、プリセットスタイルの中から「16ビートバラード(スタイルナンバー056『16btBald』)」を探しましょう。

Time After Time

タイム・アフター・タイム

Words & Music by Cyndi Lauper and Rob Hyman

使用スタイル = 056^F 16btBald_A

メロディトラック使用ボイス = 074^F Flute_A

メロディ

コード

テンポ

使用セクション

001 002 003 004

C sus4 C C sus4 C C sus4 C C sus4 C

♩ = 120

Main A

005 006 007 008

C sus4 C C sus4 C C sus4 C C sus4 C

009 010 011 012

C sus4 C C sus4 C C sus4 C C sus4 C

013 014 015 016

Fm7 G7 Em7 Fm7 G Em7

録音手順は、

パターントラックのステップ録音
 コードトラックのステップ録音
 メロディトラックの録音(リアルタイム/ステップ録音)
 テンポトラックの録音

のようになります。

それではさっそくパターントラックから録音してみましょう。

017 018 019 020
 FM7 G Em7 F G Am
 Fill AB Main B

021 022 023 024
 F G C G Am

025 026 027 028
 F G C F G C
 Fill BA Main A

029 030 031 032
 F G C F G C
 ♩ = 112

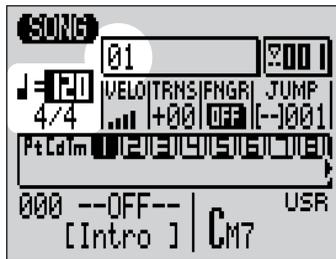
033 034 035
 F G C
 ♩ = 105 ♩ = 95
 #129--END--

パターントラックのステップ録音

パターントラックに、バックアップパートのパターンを並べます(ステップ録音します)。

1

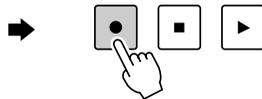
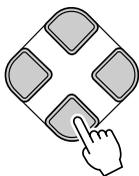
ソングモードのプレイ画面で、ソングナンバー「01」を選び、テンポ、拍子を確認します。



ソングジョブ「Song Name」を使って、ソングネームを「TimeAft」など分かりやすいものにしておきましょう。(リファレンス編61ページ参照)

2

ソングモードのプレイ画面で、カーソルをパターントラック「Pt」に移動して、[●] を押します。



3

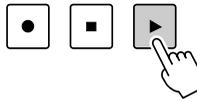
カーソルをステップ録音「STEP」に移動して、[+1] を押します。「STEP」の下に[B]が表示されます。



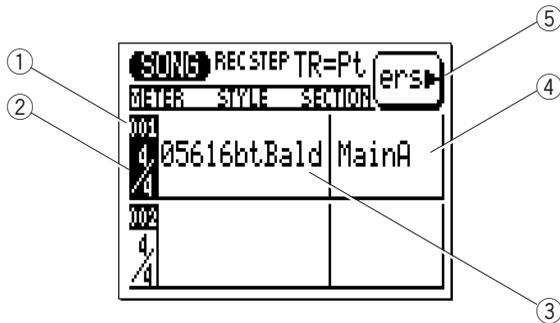
カーソルを録音トラックの段から、上段(録音モード選択)に移動する時は、まずカーソル▲を押してください。カーソル◀▶を先に押すと、録音トラックが変更されてしまいます。

4

[▶] を押して、ステップ録音を開始します。



パターントラック録音画面解説



- ① 小節ナンバー
- ② 拍子
- ③ スタイルナンバーとスタイル名
- ④ セクションネーム
- ⑤ イレース(ers▶)ボタン

5

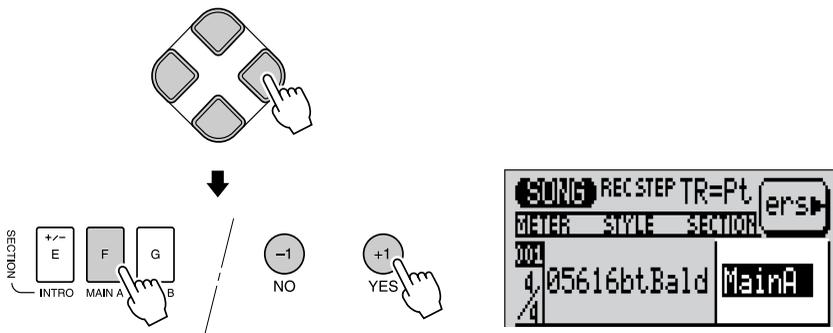
カーソルを1小節目(001)の「STYLE」に移動します。[+1]または[-1]を押して、1小節目に録音するスタイルナンバー『05616btBald』を選択します。



入力位置を間違えた時は、ers▶[F1]を押すと消去されます。

6

カーソルを1小節目(001)の「SECTION」に移動します。[MAIN A] [+1] または[-1]を押して、1小節目に録音するセクション「Main A」を選択します。



入力位置を間違えた時は、ers▶[F1]を押すと消去されます。



7

同じように楽譜を参考にしながら、18小節目のセクションに「Fill AB」、19小節目のセクションに「MAIN B」、26小節目のセクションに「Fill BA」、27小節目のセクションに「MAIN A」を入力します。スタイルナンバーを入力する必要はありません。

スタイルナンバーとセクションが入力されていない小節は、前の小節のスタイルやセクションを引き続き演奏します。

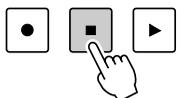


最後の小節の次の小節(35小節目)にプリセットスタイルの129「--End--」を入力します。(カーソルをSTYLEに移動して[SHIFT]+[+1]を3回押すとすばやく選択できます。)



8

[■]を押すと、ステップ録音を終了し、ソングモードのプレイ画面に戻ります。パターントラックにデータが録音されると、「Pt」の下に「■」が表示されます。

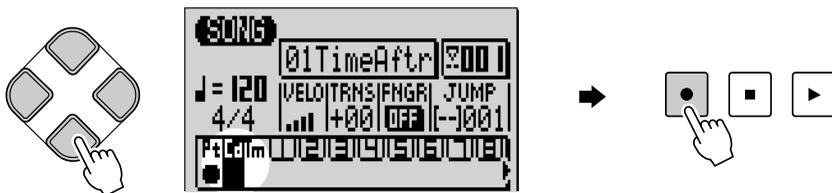


コードトラックのステップ録音

コードトラックにコードを並べます(ステップ録音します)。

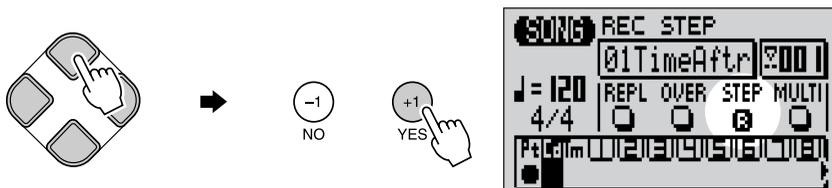
1

ソングモードのプレイ画面で、カーソルをコードトラック「Cd」に移動して、[●]を押します。



2

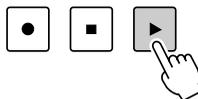
カーソルをステップ録音「STEP」に移動して、[+1]を押します。「STEP」の下に[●]が表示されます。



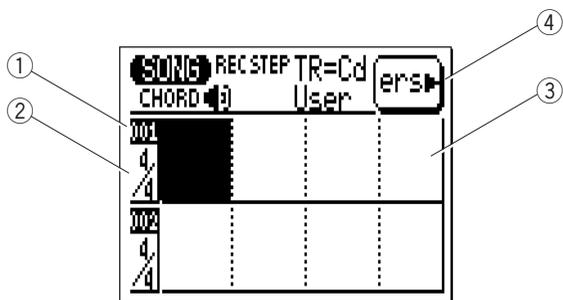
カーソルを録音トラックの段から、上段(録音モード選択)に移動する時は、まずカーソル▲を押してください。カーソル◀▶を先に押すと、録音トラックが変更されてしまいます。

3

[▶]を押して、ステップ録音を開始します。



コードトラック録音画面解説

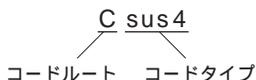


- ① 小節ナンバー
- ② 拍子
- ③ コードネームの入力欄(1~4拍)
- ④ イレース(ers▶)ボタン

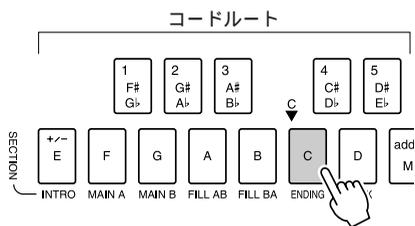
4

カーソルを1小節目(001)の1拍目に移動します(上図で黒く塗りつぶされている位置)。コード(コードルート/コードタイプ)が書かれている鍵盤ボタンを押して、1小節目に録音するコードネーム「C sus4」を入力します。

コードの入力は、コードルートとコードタイプをそれぞれ入力します。

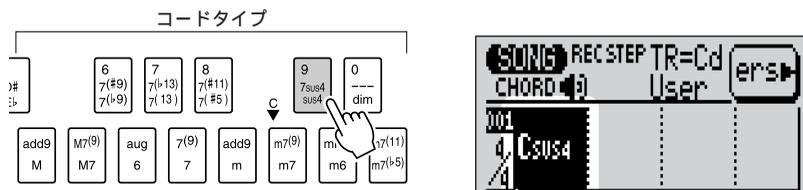


コードルートを入力するには、鍵盤ボタンの左側を使用します。「C」と書かれた鍵盤ボタンを押すと、コードルート「C」が入力できます。



次に、コードタイプを入力するには、鍵盤ボタンの右側を使用します。一度押すと下段に書かれたコードタイプが、もう一度押すと上段に書かれたコードタイプが入力されます。

上段に「7sus4」、下段に「sus4」と書かれた鍵盤ボタンを押すとコードタイプ「sus4」が入力できます。

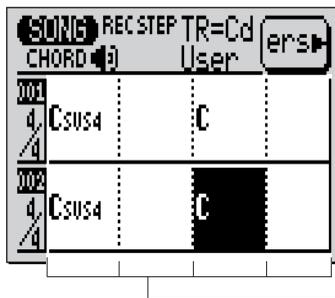


HINT!

入力位置を間違えた時は、ers▶[F1]を押すと消去されます。



同じように楽譜を参考にしながら、曲の最後までコードネームを順番に入力します。



コードネームを入力する枠は、拍で区切られています。



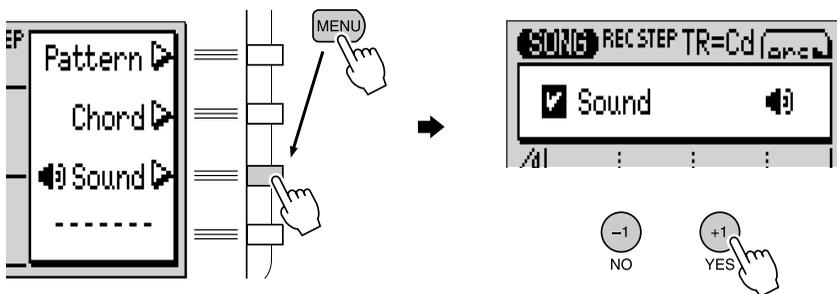
MEMO

コードが入力されていない小節/拍は、前のコードと同じになります。



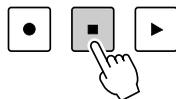
HINT!

入力したコードを、実際に聴いて確認することができます。
[MENU]を押して、「Sound [F3]を選択します。[+1] [コードが鳴る] - 1]
(鳴らない)を押して、設定を切り替えます。[EXIT]を押すと元の画面に戻ります。

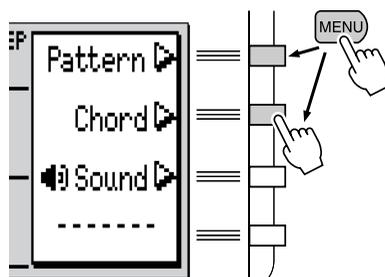


6

[■] を押すと、ステップ録音を終了し、ソングモードのプレイ画面に戻ります。コードトラックにデータが録音されると、「Cd」の下に「■」が表示されます。



ステップ録音中に「パターントラックの録音画面」と「コードトラックの録音画面」を切り替えることができます。[MENU] を押して、「Pattern」または「Chord」を選択して切り替えます。[EXIT] を押すと元の画面に戻ります。



パターントラックとコードトラックを録音したら、一度再生して、以下の項目を確認しましょう。

パターンは、パターントラックに録音したスタイルナンバー、およびセクションの切り替えに応じて変化していますか？

録音したコード進行に応じてパターンの演奏は変化していますか？

うまく録音できたら、次はいよいよメロディを録音してみましょう。

メロディ演奏を録音しよう

パターントラックに録音したパターン演奏に、『タイム・アフター・タイム』のメロディパートを加えましょう。

メロディパートは、QY70のシーケンストラックに録音します。

メロディトラックの録音(リアルタイム/ステップ録音)

メロディなどをシーケンストラック(1~16)に録音する場合、QY70では大きく分けて2種類の方法が用意されています。

リアルタイム録音

QY70本体の鍵盤ボタンを弾いて録音します。ちょっと小さな鍵盤ですが、自信のある人は挑戦してみましょう。

ステップ録音

1音1音、データを記録していく方法です。鍵盤演奏が苦手な人でも簡単に録音することができます。



シーケンストラック1~16に録音されたデータは、パターントラックに録音されたデータと異なり、コードトラックに録音されたコード進行に影響されません。



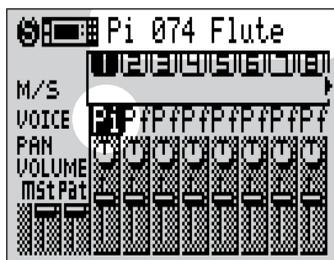
外部MIDIキーボードをQY70のMIDI IN端子に接続し、HOST SELECTスイッチを「MIDI」にしている場合は、MIDIキーボードを演奏することによって、リアルタイム録音することができます。

リアルタイム録音

すでに録音されているパターントラック[Pt]の演奏を聴きながら、メロディをリアルタイム録音します。パターントラックの演奏を聴きたくない場合は、あらかじめソングモードのプレイ画面でパターントラックをミュートします。(33ページ参照)



ソングモードのミキサー画面で、カーソルをシーケンストラック1のVOICE部分に移動して、『タイム・アフター・タイム』のメロディに合ったボイスを選びます。「074 Flute」などがおすすめです。



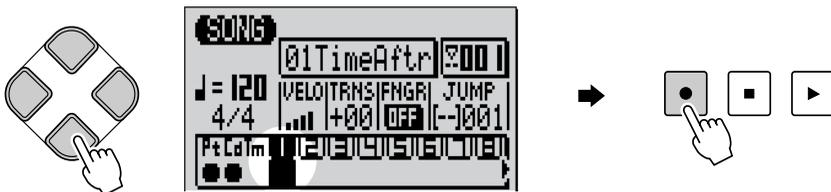


ボイスの選択(例: 074 Flute)は、[+1] または [-1] を押すか、[SHIFT] を押しながら鍵盤ボタン(黒鍵)の「7」、「4」を押し、[ENTER] を押すことで入力できます。

ボイスの選択が終わったら[EXIT] を押して、ソングモードのプレイ画面に戻ります。

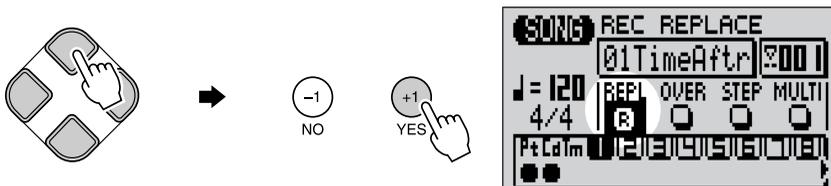
2

ソングモードのプレイ画面で、カーソルをシーケンストラック1に移動して、[●] を押します。



3

カーソルをリプレイ録音「REPL」に移動して、[+1] を押します。「REPL」の下に  が表示されます。



カーソルを録音トラックの段から、上段(録音モード選択)に移動する時は、まずカーソル▲を押してください。カーソル◀▶を先に押すと、録音トラックが変更されてしまいます。

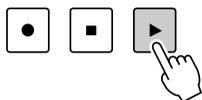
録音の種類

- REPL** リプレイ録音(リアルタイム録音)
リアルタイム録音の基本モードです。トラックにすでに演奏データがある場合は、そのデータを消去して、新しいデータに書き替えます。
- OVER** オーバーダブ録音(リアルタイム録音)
すでに録音されている演奏データに、新しいデータを書き加えます。ピアノパートなどを録音する場合、まず右手パートを録音し、後から左手パートを追加して録音することができます。
- STEP** ステップ録音(58ページ参照)
- MULTI** マルチテンパー録音(リファレンス編30ページ参照)

4

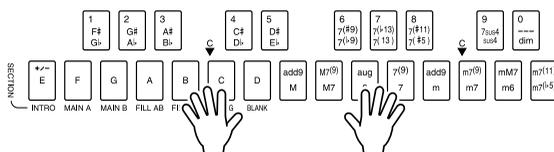
[▶] を押すと、カウントが1小節分鳴ります(メジャー表示「-01」)。

1小節のカウントが終わると録音できる状態になり(メジャー表示「01」「02」...)、リアルタイム録音(リプレース録音)を開始します。



5

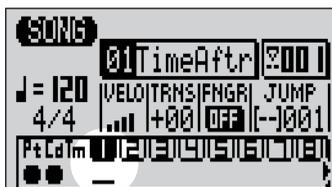
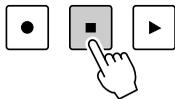
パターントラックの演奏(再生)に合わせて、メロディ部分をQY70の鍵盤ポタンで演奏します。



外部MIDIキーボードをQY70のMIDI IN端子に接続し、HOST SELECTスイッチを「MIDI」にしている場合は、MIDIキーボードの演奏を録音できます。

6

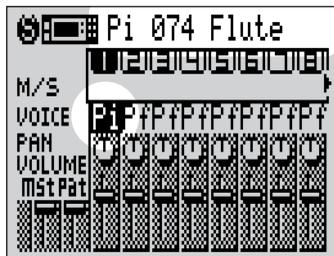
[■] を押すと、リアルタイム録音を終了し、ソングモードのプレイ画面に戻ります。シーケンストラック1にデータが録音されると、「1」の下に「■」が表示されます。



ステップ録音

1

ソングモードのミキサー画面で、カーソルをシーケンストラック1のVOICE部分に移動して、『タイム・アフター・タイム』のメロディに合ったボイスを選びます。「074 Flute」などがおすすめです。

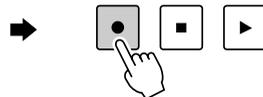
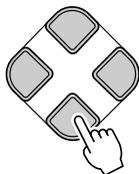


ボイスの選択(例: 074 Flute)は、[+1]または[-1]を押すか、[SHIFT]ボタンを押しながら、鍵盤ボタン(黒鍵)で「7」、「4」を押し、[ENTER]を押すことで入力できます。

ボイスの選択が終わったら[EXIT]を押して、ソングモードのプレイ画面に戻ります。

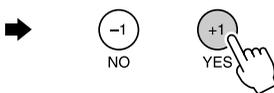
2

ソングモードのプレイ画面で、カーソルをシーケンストラック1に移動して、[●]を押します。



3

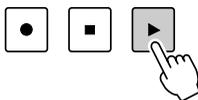
カーソルをステップ録音「STEP」に移動して、[+1]を押します。「STEP」の下に [R] が表示されます。



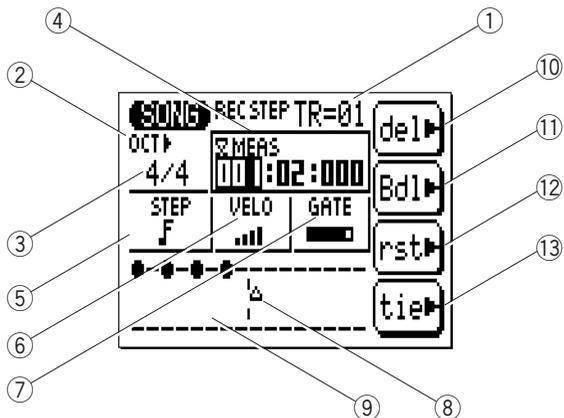
カーソルを録音トラックの段から、上段(録音モード選択)に移動する時は、まずカーソル▲を押してください。カーソル◀▶を先に押すと、録音トラックが変更されてしまいます。

4

[▶] を押して、ステップ録音を開始します。



ステップ録音画面解説



- ① ステップ録音トラック(変更不可)
- ② オクターブ(-4~0~+4) (QY70鍵盤) QY70の鍵盤ボタンのオクターブを設定します。
- ③ 拍子(変更不可)
- ④ ポインター⑧の位置表示 (小節:拍:クロック)
- ⑤ ステップタイム ステップ入力する音符を設定します。
- ⑥ ベロシティ QY70の鍵盤ボタンのベロシティ(鍵盤ボタンを押さえた時に鳴る音の強さ)を設定します。
- ⑦ ゲートタイム(50、90、100%) ステップ入力する音符の長さ(実際に鳴る時間)を設定します。通常は90%に、スタッカートにする時は50%に、スラーにする時は100%に設定します。
- ⑧ ポインター(音符の入力位置)
- ⑨ ビートグラフ ステップレコーディングで実際に音符を置く画面です。ビートグラフ上の1つの「=」は32分音符の長さを表します。したがって8個の「=」で4分音符、32個の「=」で全音符の長さとなります。
- ⑩ デリート ポインターの位置の音符を削除します。
- ⑪ バックデリート ポインターを1ステップタイム分戻し、その位置の音符を削除します。
- ⑫ レスト ステップタイム相当の休符を入力します。
- ⑬ タイ タイを入力します。

入力例

サンプル曲『タイム・アフター・タイム』のメロディパート全体を見てみましょう。使われている音符は、8分音符、4分音符、付点4分音符、2分音符などです。

1音入力するたびにステップタイム(音符の長さ)を設定するのは、効率的ではありません。ステップタイムは、常に「8分音符 = ♩」に設定しておき、8分音符以外はタイでつなげると素早く入力できます。

まずQY70のディスプレイをイラストのように設定します。

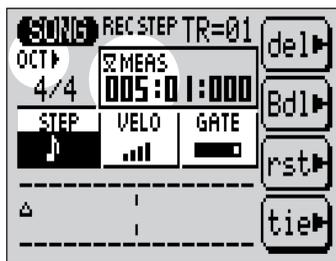
OCT  ([OCT UP] を押して1オクターブUP)

MEAS **005** (メジャーを5小節目に設定)

STEP  (ステップタイムを8分音符に設定)

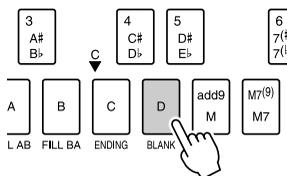
VELO  (グラフのバー4本表示)

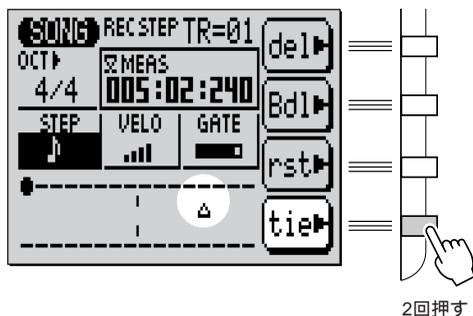
GATE  (初期設定のまま)



1音目()

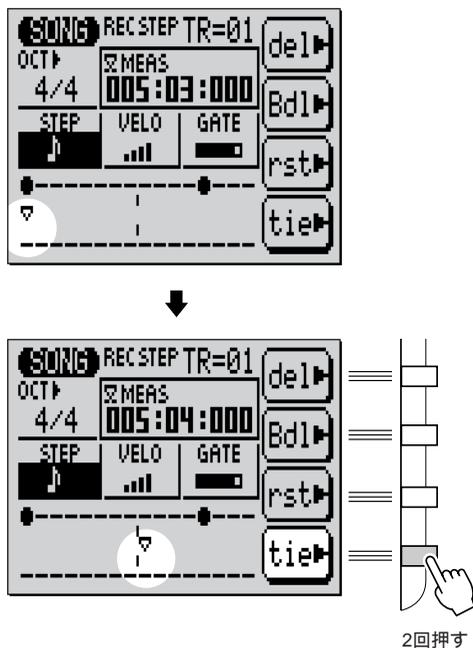
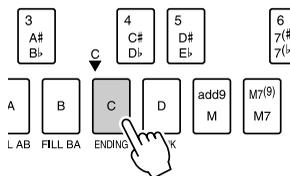
鍵盤ボタン[D] を押します。ディスプレイ下段のポインターが8分音符の長さだけ移動しました。これで1音目が8分音符の長さで入力されました。これを付点4分音符の長さにするために、tie  [F4] を2回押します。(♩ = ♩♩)





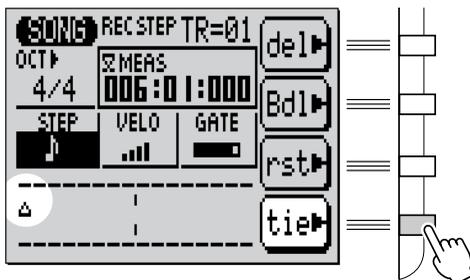
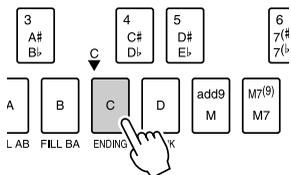
2～3音目([C])

鍵盤ボタン[C]を押します。ディスプレイ下段ののポインターが8分音符の長さだけ移動しました。これで2音目が8分音符の長さで入力されました。3音目は4分音符の長さでタイでつながっているので、tie▶[F4]を2回押します。
 (♪♪ = ♪♪♪)



4音目(D [C])

鍵盤ボタン [C] を押します。ディスプレイ下段ののポインターが8分音符の長さだけ移動しました。これで4音目が8分音符の長さで入力されました。これを4分音符の長さにするために、tie [F4] を1回押します。(♪ = ♪♪)



ここから先は、同じように楽譜を参考にしながら、曲の最後までメロディを入力してみましょう。



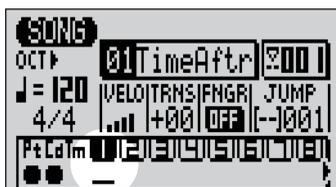
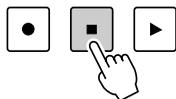
HINT!

入力位置を間違えた時は、すぐにBd(バックデリート) [F2] を押すと、ポインターが入力前の位置に戻り、入力した音符が消去されます。カーソルをポインターに移動し(ポインターが黒く表示されます)、ポインターを消去したい音符まで移動してde(デリート) [F1] を押すとポインターの位置の音符を消去できます。

rs(レスト) [F3] を押すと、ステップタイムの長さの休符が入力できます。この曲で4分休符を入力する時は、ステップタイムが8分音符なので、rs(レスト) [F3] を2回押します。

5

[■] を押すと、ステップ録音を終了し、ソングモードのプレイ画面に戻ります。シーケンストラック1にデータが録音されると、「1」の下に「—」が表示されます。

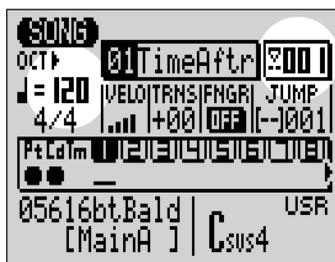


テンポトラックの録音

サンプル曲『タイム・アフター・タイム』のテンポは♩ = 120で始まり、32小節目以降は、小節ごとに少しずつ遅くなります。この変化をテンポトラックに録音しましょう。

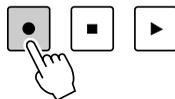
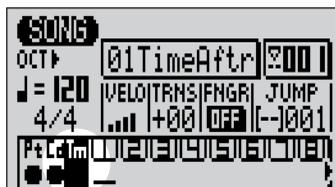
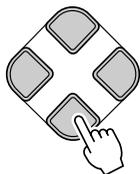
1

ソングモードのプレイ画面で、メジャーが「001」、♩ = 120になっていることを確認します。



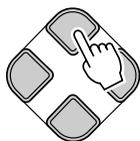
2

カーソルをテンポトラック「Tm」に移動して、[●] を押します。



3

カーソルをリプレース録音「REPL」に移動して、[+ 1] を押します。「REPL」の下に **RE** が表示されます。



-1

NO

+1

YES



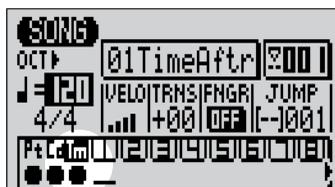
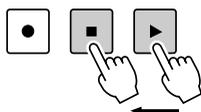
MEMO

カーソルを録音トラックの段から、上段 (録音モード選択) に移動する時は、まずカーソル▲を押してください。カーソル◀▶を先に押すと、録音トラックが変更されてしまいます。

テンポトラックはリプレース録音しかできません。

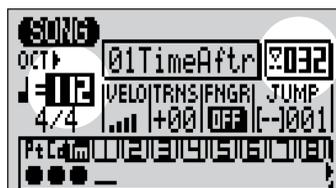
4

[▶] を押して録音をスタートし、何も録音せずに [■] を押してストップすると、ソングモードのプレイ画面に戻ります。テンポトラックにデータが録音されると、「Tm」の下に「■」が表示されます。これでテンポトラックの1小節目に「♩ = 120」が録音されました。



5

テンポトラックの32小節目に「♩ = 112」を録音します。ソングモードのプレイ画面で、カーソルボタンと、[+ 1] [- 1] を使って、メジャーを「032」、♩ = 112 に設定し、上記手順の2~4を繰り返します。



同様に33小節目に「♩ = 105」、34小節目に「♩ = 95」を録音します。

これで、パターントラック、コードトラック、テンポトラック、シーケンストラック1にすべての演奏データが録音できました。[▶] を押して再生してみましょう。

ソングモードのジョブ

ソングモードのジョブには、ソングを録音する時に便利な機能が満載されています。ここではその一部を紹介します。

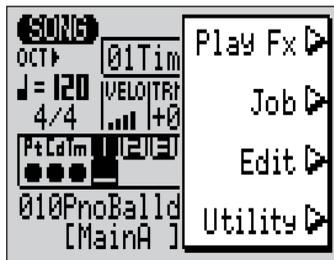
詳細はリファレンス編の44ページ『ソングジョブ』を参照してください。

アンドゥー/リドゥー

録音時のミスを手助けしてくれるのが、このアンドゥー/リドゥー機能です。アンドゥーを実行すると、直前の操作を取り消して、もとに状態に戻すことができます。リドゥーは、アンドゥーした(取り消した)操作を再実行します。

1

ソングモードのプレイ画面で、[MENU] を押すと、ポップアップメニューが画面の右端に表示されます。



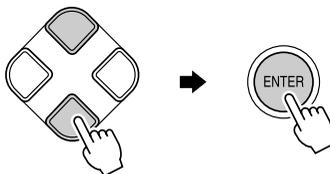
2

[F2] [Job] を押すと、ソングジョブのメニュー画面に切り替わります。



3

カーソルで「00 Undo/Redo」を選んで、[ENTER] を押します。



4

ディスプレイに「Undo」が表示され、下段にアンドゥーの対象になる(取り消す)操作を表示しています。どの操作をアンドゥーするのかを確認した後 [ENTER] を押すと、アンドゥーが実行されます。



JOBの実行中は...



時計のイラストを表示します。

JOBが終了すると...



QY70のイラストと「Completed!」を表示します。

5

アンドゥーが終了すると、ディスプレイの「Undo」表示が「Redo」表示に切り替わります。[ENTER] を押すと、アンドゥーされた操作が再実行されます。



6

[EXIT] を2回押すと、ソングモードのプレイ画面に戻ります。



ソングジョブ画面に入らなくても、[SHIFT]と[F4]を同時に押すことによって、直前の操作をアンドゥー/リドゥーすることができます。ただし、この場合アンドゥーとリドゥーのどちらを実行するのか、また、アンドゥー/リドゥーの対象になる操作が表示されませんので、注意が必要です。

クオンタイズ

リアルタイム録音すると、音符のばらつき(タイミングのずれ)が気になることがあります。録音したデータの、発音タイミングのばらつきを整えてくれるのが、クオンタイズ機能です。

クオンタイズ値は、録音されている音符の中で最小の音符に合わせて設定してください。たとえば、4分音符と8分音符が録音されているデータは、クオンタイズ値を8分音符に設定してクオンタイズしてください。もしここで、クオンタイズ値を4分音符に設定してクオンタイズすると、8分音符は4分音符上に移動してしまいます。

クオンタイズする前の音符の状態

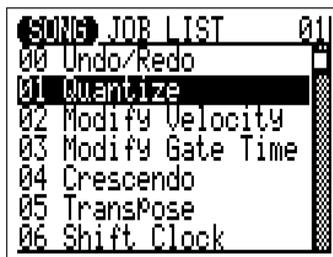
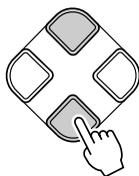


クオンタイズ値「♪」でクオンタイズした後の音符の状態



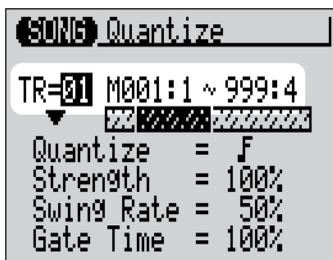
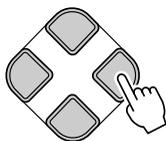
1

65ページの手順 1~2 と同じように、ソングジョブのメニュー画面を表示させ、カーソルで「01 Quantize」を選んで「ENTER」を押します。



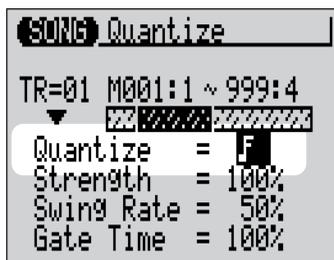
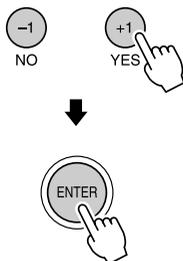
2

カーソルを「TR」M001:1~999:4」に移動して、クオンタイズするトラックと、クオンタイズする範囲(小節:拍)を設定します。



3

カーソルを「Quantize = 」に移動して、クオンタイズ値を設定します。
[ENTER] を押すと、クオンタイズが実行されます。



ディスプレイ表示	クオンタイズ値
	32分音符
	16分3連音符
	16分音符
	8分3連音符
	8分音符

ディスプレイ表示	クオンタイズ値
	4分3連音符
	4分音符
	8分音符 + 8分3連音符
	16分音符 + 16分3連音符



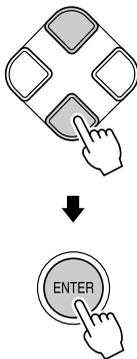
その他の設定項目「Strength」「Swing Rate」「Gate Time」をうまく設定すると、より自然なスイング感を出すことができます。詳細はリファレンス編の46ページを参照してください。

コピーイベント

録音操作を大幅にスピードアップするジョブが、コピーイベントです。たとえば、1～4小節の演奏内容と5～8小節の演奏内容が同じ場合は、1～4小節だけ録音して、その演奏内容を5～8小節にコピーすることができます。

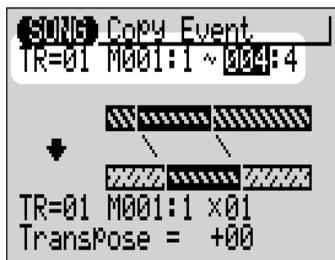
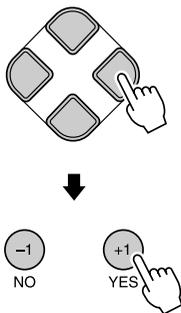
1

65ページの手順 1～2と同じように、ソングジョブのメニュー画面を表示させ、カーソルで「09 Copy Event」を選んで[ENTER]を押します。



2

カーソルを上段の「TR」M001:1～999:4」に移動して、コピーするトラックと、コピーする範囲(メジャー：拍)を設定します(コピーする元データの指定)。

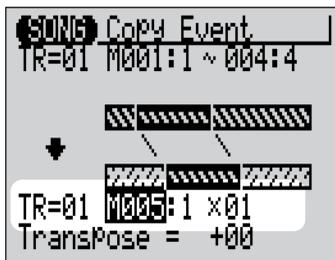
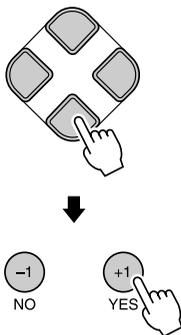


コピーする範囲の拍の設定を間違えないように注意しましょう。



3

カーソルを下段の「TR」M001:1～999:4」に移動して、コピー先のトラックと、コピー先の先頭の位置(メジャー：拍)、コピーする回数を設定します(コピー先の指定)。



コピー先に違うトラックを設定することもできます。



4

[ENTER] を押すと、コピーイベントが実行されます。





分解能って何？

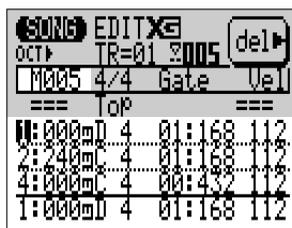
QY70のスペックを見ると「4分音符の分解能は480クロック」ということが分かる。「分解能」って何だろう、と思った人も多いだろう。これはデジタル楽器特有の考え方で、音符の長さや演奏タイミングを「クロック数」に数値化して、制御しているのだ。

QY70は「4分音符 = 480クロック」だから、クロックの最小単位は「4分音符の1/480」ということになる。これはとても小さな演奏タイミングのずれも見逃さない、シーケンサーの機能としてはプロ並の数値である。

ステップ録音画面



ソングエディット画面
(リファレンス編62ページ参照)



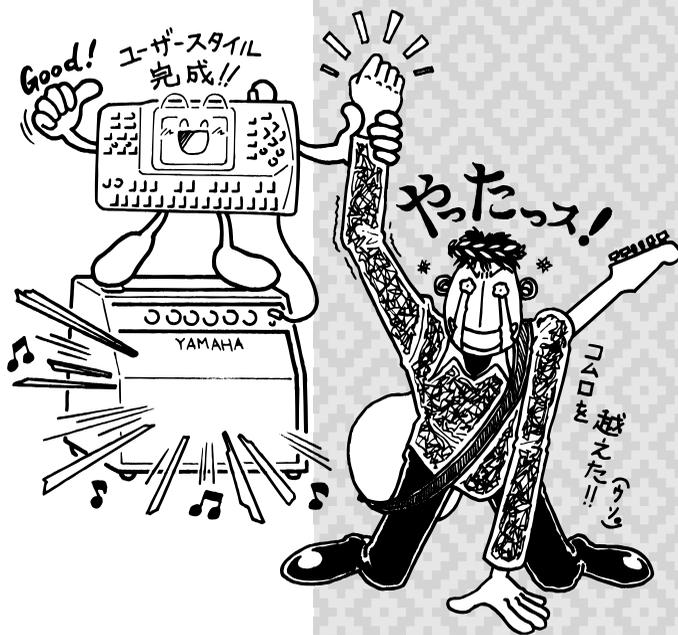
以下、主な音符のクロック数を覚えておくと、ステップ入力する時に参考になるぞ。

音符の種類	クロック数
全音符	1920
2分音符	960
4分音符	480
3連4分音符	320(3連続入力すると2分音符相当)
8分音符	240
3連8分音符	160(3連続入力すると4分音符相当)
16分音符	120
3連16分音符	80(3連続入力すると8分音符相当)
32分音符	60

第4章

この章では、ユーザーパターンの作り方を解説します。パターンはソング作りの最も基本的な部分なので、じっくりと練り上げて、自分だけの新しいパターンを作ってみましょう。

ユーザーパターンを作ってみよう 72ページ



ユーザーパターンを 作ってみよう

QY70のプリセットフレーズは約4,000種類用意されています。

どのセクションのどのトラック(D1/D2/PC/BA/C1/C2/C3/C4)に、どんなフレーズが使われているか、プリセットスタイルを調べてみましょう。効果的な組み合わせが理解できるでしょう。(各トラックをソロ再生してみると、どんなフレーズが使われているかが、よく分かります。)

(7777)	029	PsychRok	3/4M
		[MainA]	VEL.mf
↓B1	C (M)	FNGR	cler
4/4	m7	OFF	
D1	Da-1006	PsWRk-1a	
D2	Da-1012	PsWRk-2a	
PC	PC-1003	PsWRk-a	
BA	Ba-1006	PsWRk-a	

画面切り替え ↓

C1	GR-1006	PsWRk-1a	
C2	GR-1012	PsWRk-2a	
C3	Ga-1001	PsWRk-a	
C4			

各トラックに
割り当てられた
フレーズ

ユーザーパターンの一般的な録音手順は、どのセクションを作る場合でも

1. ドラム(D1/D2)/パーカッション(PC)トラックの録音
2. ベース(BA)トラックの録音
3. コード(C1~C4)トラックの録音

のようになります。

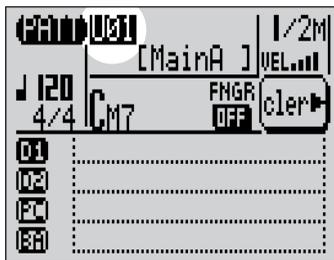
それでは、さっそくパターンをステップ録音してみましょう。ここでは、ちょっぴりヒップホップ系が入った(?)簡単なスタイルのINTROセクションとMAIN Aセクションを作ります。

INTROセクションの録音

まず、D1トラックとD2トラックを使って、INTROセクションを作りましょう。

1

パターンモードのプレイ画面で、ソングナンバー「U01」を選びます。(カーソルをスタイルナンバーに移動して[SHIFT]+[+1]を押すと、すぐに選択できます。)

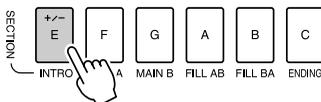


HINT!

パターンジョブ「Style Name」を使って、スタイルネームを『HipHop?』など、分かりやすいものにおきましょう。(リファレンス編117ページ参照)

2

INTROボタン(鍵盤ボタン)を押すとセクションが「Intro」に切り替わります。小節数を「1/1」に設定します。



MEMO

カーソルがスタイルナンバー、またはセクションの位置にある時だけ、鍵盤ボタンを押してセクションを変更することができます。

フレーズトラックに録音されたユーザーフレーズがない時だけ、小節数を変更することができます。

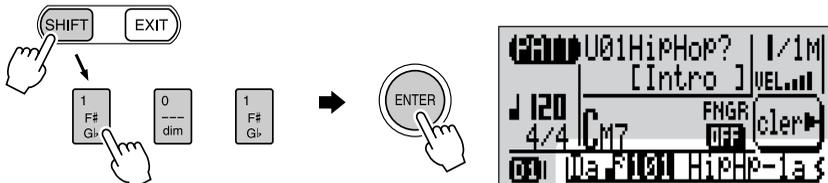
3

カーソルをD1トラックに移動して、[+1]を押します。「D1」の右に「Da ♪ 001 Goa1 -1a」が表示されます。



これはD1トラックに、フレーズカテゴリ=Da、フレーズビート=16ビート(♪) ナンバー001の「Goa1-1a」という名前のフレーズが割り当てられたことを表します。

ここではD1トラックに、フレーズカテゴリ=Da、フレーズビート=16ビット(♪)、ナンバー101の「HipHp-1a」という名前のフレーズを割り当てます。カーソルをフレーズナンバーに移動し、[SHIFT]を押しながら鍵盤ボタン(黒鍵)の「1」、「0」、「1」を押します。[ENTER]を押すとフレーズが確定します。



トラックに割り当てたフレーズを削除するには、削除したいトラックにカーソルを移動して、cle(クリア)▶[F2]を押します。

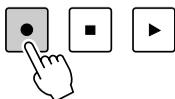
[▶]を押して、「HipHp-1a」の軽快なフレーズを聞いてみましょう。



4

D1トラックのシンプルな演奏に加えて、D2トラックにスクラッチ音を録音して、リズムに味付けしてみましょう。

カーソルをD2トラックに移動して、[●]を押します。「D2」の右に「US - - 002 User」が表示されます。



フレーズカテゴリの「US」はユーザーフレーズ、つまりユーザーが自由に録音できるフレーズであることを表します。

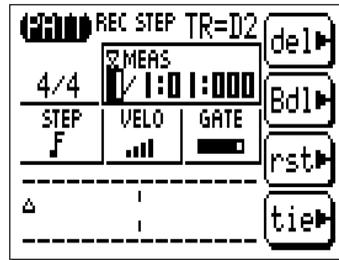
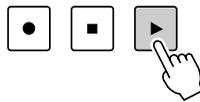
5

最上段の「STEP」にカーソルを移動して、[+1]を押して[STEP]を表示させます。



6

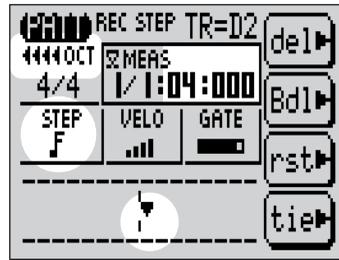
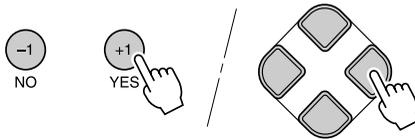
[▶] を押して、ステップ録音を開始します。



ステップ録音画面は、シーケンストラックのステップ録音画面と同じです。(59ページ参照)

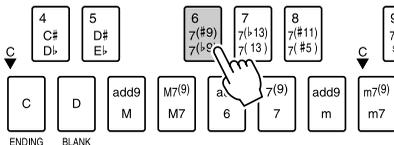
7

鍵盤ボタンのオクターブ設定を「- 4 4444」、ステップタイムを「16分音符 = ♩」に設定して、ポインターを4拍目の先頭に移動します。



8

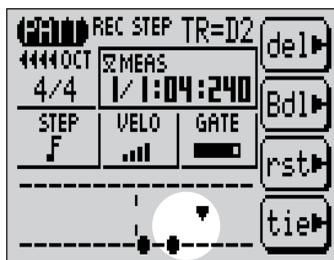
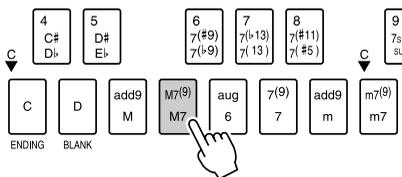
鍵盤ボタンの「F#-1 (「6」と書かれた黒鍵) を押して、1音目のスクラッチプルを入力します。



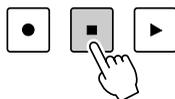
[SHIFT]+[F1] を押すと、押している間、鍵盤ボタンに割り当てられているドラム音色をリスト表示します。(リファレンス編21ページ参照)



鍵盤ボタンの「F-1 (「M7」と書かれた白鍵) を押して、2音目のスクラッチプッシュを入力します。



[■] を押すと、ステップ録音を終了し、パターンモードのプレイ画面に戻ります。D2トラックにデータが録音されると、「D2」の右に「|」が表示されます。



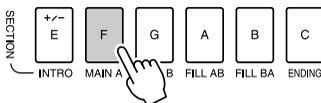
[▶] を押して、完成したイントロのフレーズを聞いてみましょう。

MAIN Aセクションの録音

次に、D1トラック、BAトラック、C1トラックを使って、MAIN Aセクションを作りましょう。



カーソルをセクションの位置に移動して、MAIN Aボタン(鍵盤ボタン)を押すとセクションが「Main A」に切り替わります。小節数は「1/2」のままでOKです。



カーソルがスタイルナンバー、またはセクションの位置にある時だけ、鍵盤ボタンを押してセクションを変更することができます。



2

Introセクションと同じように、73ページの手順3を参考にして、D1トラックに「HipHp-1a」という名前のフレーズを割り当てます。



3

BAトラックにベース音を録音してみましょう。

カーソルをBAトラックに移動して、[●]を押します。「BA」の右に「US--012 User」が表示されます。

最上段の「STEP」に[B]を表示させます。

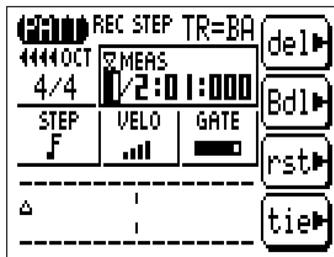
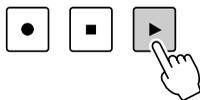
タイプ、音色はそのままOKです。



タイプとは、コード進行に合わせてフレーズがどのように演奏(ボイシング)されるかを示したものです。詳細はリファレンス編の95ページを参照してください。

4

[▶]を押して、ステップ録音を開始します。

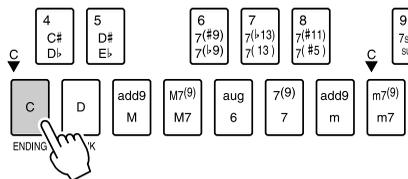


5

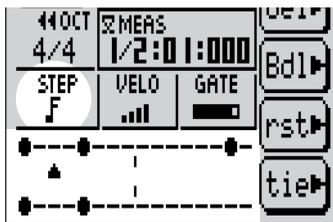
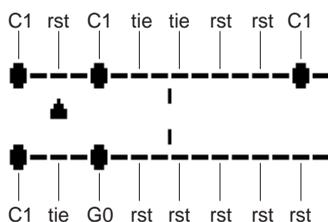
鍵盤ボタンのオクターブ設定を「- 2」、ステップタイムを「16分音符 = ♩」に設定します。



ポインターが1拍目の先頭にあることを確認し、鍵盤ボタンの「C1 (「C」と書かれた白鍵) を押して、1音目のC1を入力します。



ステップタイムは「16分音符 = ♩」のまま、イラストにしたがって1小節目を入力します。



「rst (レスト: 休符)」、「tie (タイ)」は、それぞれ「rst」、「tie」の右側のファンクションボタンを押すことで入力できます。

「G0」は「G」と書かれた白鍵を押して入力します。

同じように2小節目を入力します。

The diagram shows two staves of music. The top staff has notes labeled C1, rst, C1, tie, tie, rst, rst, C1. The bottom staff has notes labeled C1, tie, G0, rst, E1, B1, tie, G1. To the right is a control panel with the following settings:

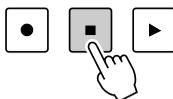
44OCT	MEAS	VEL
4/4	2/2:01:000	Bd1
STEP	VELO	GATE
F	[meter]	[meter]
[row of notes]	[row of notes]	[row of notes]
[row of notes]	[row of notes]	[row of notes]
		tie



「E1」は「M/add9」と書かれた白鍵を、「B1」は「m/add9」と書かれた白鍵を押して入力します。「G1」は「6/aug」と書かれた白鍵を押して入力します。

6

[■] を押すと、ステップ録音を終了し、パターンモードのプレイ画面に戻ります。BAトラックにデータが録音されると、「BA」の右に「|」が表示されます。



[▶] を押して、BAトラックに録音したベースのフレーズを聞いてみましょう。

7

C1トラックにコード音を録音してみましょう。

カーソルをC1トラックに移動して、[●] を押します。「C1」の右に「US--013 User」が表示されます。

最上段の「STEP」に [] を表示させます。

音色は「Pf 005 + HardE1.P」を選びます。

タイプは「Chrd2」に設定します。

The screenshot shows the control panel with the following settings:

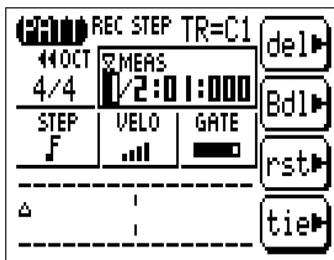
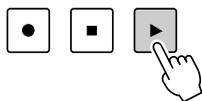
REC STEP	1/2M
44OCT	OVER STEP
120	TYPE Pf 005+
4/4	Chrd2 HardE1.P
C1	US--013 User
C2	
C3	
C4	



タイプの設定についての詳細はリファレンス編の95ページを参照してください。

8

[▶] を押して、ステップ録音を開始します。

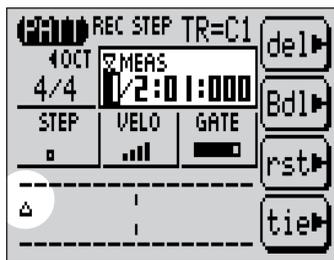
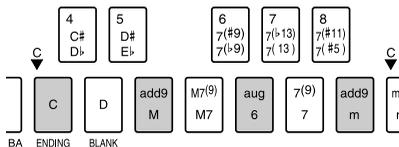


9

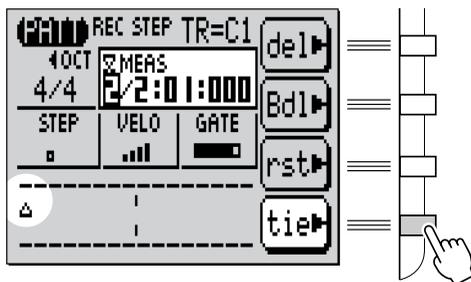
鍵盤ボタンのオクターブ設定を「-1↓」、ステップタイムを「全音符 = 〇」に設定します。



ポインターが1小節目の1拍目の先頭にあることを確認し、鍵盤ボタンの、ド (C2 : 「C」と書かれた白鍵)、ミ (E2 : 「M/add9」と書かれた白鍵)、ソ (G2 : 「6/aug」と書かれた白鍵)、シ (B2 : 「m/add9」と書かれた白鍵)を同時に押して、和音を入力します。

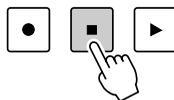


ポインターが2小節目の1拍目に移動するので、tie[F4]を押します。入力された和音は、2小節分の長さになりました。

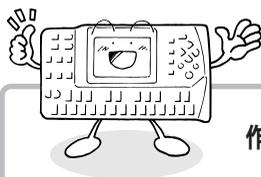


10

[■]を押すと、ステップ録音を終了し、パターンモードのプレイ画面に戻ります。C1トラックにデータが録音されると、「C1」の右に「|」が表示されます。



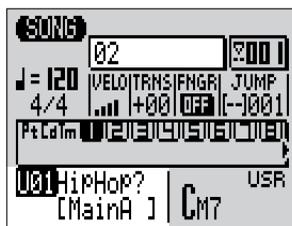
[▶]を押して、3つのトラックに録音したパターンを聞いてみましょう。



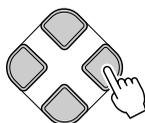
作ったパターンの演奏を素早くチェック!(コードテンプレート)

自分で作ったパターン(ユーザーパターン)が、コード進行によってどのように演奏されるかを素早くチェックするには、コードテンプレート機能が便利だ。QY70には、コード進行のテンプレート(ひな形)が99種類用意されているので、コードの知識がなくてもコード進行を演奏することができる。

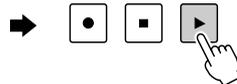
- 1 ソングモードのプレイ画面で空のソングを選び、カーソルを画面の左下に移動してスタイルナンバーとセクションを選択しよう。



- 2 カーソルを画面の右下に移動しよう。



- 3 [+1] または [-1] を押して気に入った名前のテンプレートを見つけたら、[▶] を押してさっそくプレイ!



再生中でもテンプレートやセクションを自由に変更できるので、自分が作ったパターンにぴったりのコード進行を見つけよう。また、カーソルをコードテンプレート名の位置に移動すると、コード名が表示されるので、コード進行の勉強もできてしまう。これは使わない手はない!



パターンモードのジョブ

パターンモードのジョブには、パターンを作る時に便利な機能が満載されています。ここではその一部を紹介します。

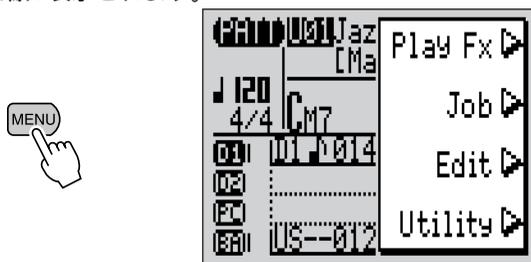
詳細はリファレンス編の104ページ『パターンジョブ』を参照してください。

コードソート

コードソートは、和音の構成音を音程の低い順、または高い順に並べ替えます。ここで言う「並べ替え」とは、フレーズエディットチェンジ画面のイベントリスト(リファレンス編120ページ参照)における順序の並べ替えのことです。ソートしても発音タイミングは変わりませんが、ソートした後にコードセパレート(85ページ参照)機能を使えば、ギターのストロークのように、微妙にずれた和音演奏を簡単に表現することができます。

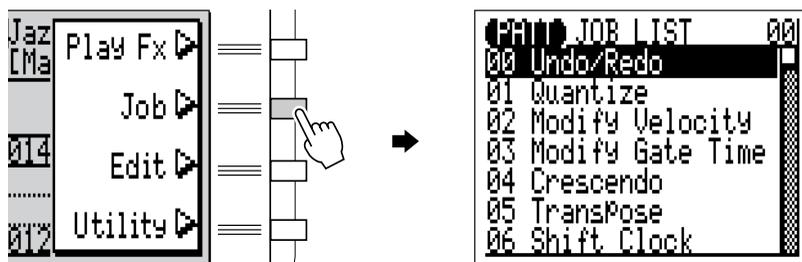
1

パターンモードのプレイ画面で、[MENU]を押すと、ポップアップメニューが画面の右端に表示されます。



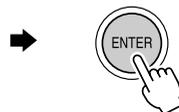
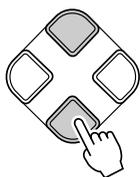
2

[F2] [Job]を押すと、パターンジョブのメニュー画面に切り替わります。



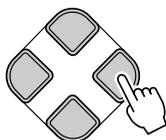
3

カーソルで「07 Chord Sort」を選んで、[ENTER]を押します。



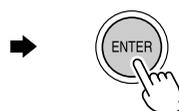
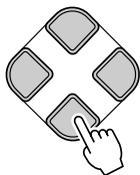
4

カーソルを「TR」[M1:1 ~ 1:4]に移動して、コードソートするトラックと範囲（小節：拍）を設定します。



5

カーソルを下段の「Type=」に移動して、ソートタイプ（ノーマル/リバース）を設定します。[ENTER]を押すと、コードソートが実行されます。



normal..... 和音の構成音を、音程の低い順に並べ替えます。

reverse... 和音の構成音を、音程の高い順に並べ替えます。

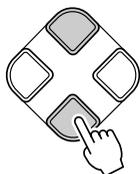
フレーズエディットチェンジ画面（リファレンス編120ページ参照）のイベントリストを見ると、和音の構成音の並び順を確認することができます。

コードセパレート

コードセパレートは、和音の構成音を、設定したクロック間隔でずらすことができます。コードソート(83ページ参照)後にこの機能を使用すると、ギターのストローク(6絃 1絃、1絃 6絃)のように微妙にずれた和音演奏を表現できます。

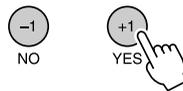
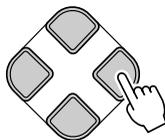
1

83ページの手順1~2と同じように、パターンジョブのメニュー画面を表示させ、カーソルで「08 Chord Separate」を選んで「ENTER」を押します。



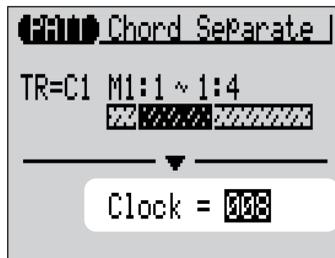
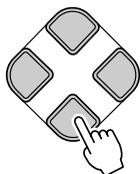
2

カーソルを「TR」に移動して、「M1:1 ~ 1:4」に移動して、コードセパレートするトラックと範囲(小節 : 拍)を設定します。



3

カーソルを下段の「Clock =」に移動して、和音の構成音をずらしたい間隔(クロック単位)を設定します。「ENTER」を押すと、コードセパレートが実行されます。



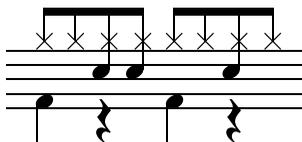
どれくらいずれたか、パターンを再生して確認しましょう。



ドラム譜ってどう読むの？

大好きなアーティストのバンドスコアを買ってきた。さあ、QY70に打ち込もう！と思ったら、あれれ、ドラムパートの楽譜が何だか変だぞ。

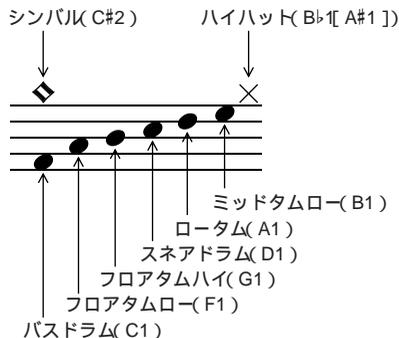
ドラムパートの楽譜



そうなのだ！市販されているバンドスコアの多くは、特殊な書き方でドラムパートの演奏が表現されているのだ。

たとえば、ドラムパートの楽譜は、下のイラストのように読むとうまく入力できるぞ。

楽譜のドラムパートの読み方の一例



()は「Dr 001 StandKit」で入力する場合のノートナンバーです。

この読み方も、あくまで「一例」である。ドラムパートの楽譜表現に厳密なルールは存在しないので、アーティストのCD演奏をよく聴いて、耳で確認することも忘れないように！

● おわりに ●

ベーシックガイドでは、QY70の基本的な使い方を解説してきました。ここに書かれているもの以外にも、QY70には豊富な機能が用意されています。

プレイエフェクト(リファレンス編40、100ページ参照)
ソング/パターンを演奏(再生)する際に、発音タイミングや強弱を一時的に変えたり、ドラムボイスの中のリズム楽器を差し替えたりできます。

ボイスエディット(リファレンス編78、130ページ参照)
ソング/パターンの各トラックに割り当てたボイスを、簡単にエディットすることができます。

ソングエフェクト(リファレンス編82ページ参照)
パターンエフェクト(リファレンス編134ページ参照)
ソング/パターンの演奏(再生)にさまざまなエフェクトをかけることができます。

外部MIDI機器と接続して連携プレイ(リファレンス編68ページ参照)
「ユーティリティ」の各設定により、外部MIDI機器との連携プレイが可能になります。

コンピューターと接続してデータ管理(QYデータファイラー取扱説明書参照)
コンピューター用ソフトウェア「QYデータファイラー」を使って、QY70で作ったソング/スタイルデータを、コンピューターに保存したり、コンピューターからQY70にSMFデータを送信したりできます。

上記のような高度な利用方法は、別冊のリファレンス編、およびQYデータファイラー取扱説明書に書かれています。実際にQY70を使用しながら、お読みください。

QY70の機能を十分に使いこなせば、QY70はあなたにとってかけがえのない音楽制作のパートナーになることでしょう。

デジタルインフォメーションセンターについて

ヤマハデジタルインフォメーションセンターでは、デジタル楽器の使用方法やトラブルなどについて、電話による質問をお受けいたします。

お問い合わせの際には、「製品名」、「製造番号」、「ご住所」、「お名前」、「電話番号」を必ずお知らせください。

ヤマハデジタルインフォメーションセンター

TEL 053-460-1666

受付日 月曜日～金曜日(祝日および弊社の休業日を除く)

受付時間 10:00～12:00 / 13:00～17:00

*HELLO! MUSIC!などのパッケージ商品をお求めのお客様で、コンピューターとの接続に関する質問の場合は、ヤマハCBXインフォメーションセンターまでお問い合わせください。

ヤマハCBXインフォメーションセンター TEL 053-460-1667

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのヤマハ電気音響製品サービス拠点にご連絡ください。

保証書

本機には保証書がついています。

保証書は販売店がお渡しますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

保証期間

お買い上げ日から1年間です。

保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

以下の部品については、使用時間により劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要となります。消耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

消耗部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、接続端子など

補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

持込み修理のお願い

まず本書の「故障かな?と思ったら」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へ本機をご持参ください。

製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

ヤマハ電気音響製品サービス拠点（修理受付および修理品お持ち込み窓口）

北海道サービスセンター	〒064-0810	札幌市中央区南 10条西 1-1-50 ヤマハセンター内	TEL (011) 512-6108
仙台サービスセンター	〒984-0015	仙台市若林区卸町 5-7 仙台卸商共同配送センター 3F	TEL (022) 236-0249
首都圏サービスセンター	〒211-0025	川崎市中原区木月 1184	TEL (044) 434-3100
東京サービスステーション*	〒108-0074	東京都港区高輪 2-17-11	TEL (03) 5488-6625
（* お持ち込み修理のみお取扱い）			
浜松サービスセンター	〒435-0048	浜松市上西町 911 ヤマハ(株) 宮竹工場内	TEL (053) 465-6711
名古屋サービスセンター	〒454-0058	名古屋市中川区玉川町 2-1-2 ヤマハ(株) 名古屋流通センター 3F	TEL (052) 652-2230
大阪サービスセンター	〒565-0803	吹田市新芦屋下 1-16 ヤマハ(株) 汗里丘センター内	TEL (06) 877-5262
四国サービスステーション	〒760-0029	高松市丸亀町 8-7 ヤマハミュージック高松店内	TEL (0878) 22-3045
広島サービスセンター	〒731-0113	広島市安佐南区西原 6-14-14	TEL (082) 874-3787
九州サービスセンター	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前 2-11-4	TEL (092) 472-2134
[本社]			
カスタマーサービス部	〒435-0048	浜松市上西町 911 ヤマハ(株) 宮竹工場内	TEL (053) 465-1158

デジタル楽器に関するお問い合わせ窓口

北海道支店 第二営業課	〒064-0810	札幌市中央区南 10条西 1-1-50 ヤマハセンター内	TEL (011) 512-6113
仙台支店 第二営業課	〒980-0804	仙台市青葉区大町 2-2-10	TEL (022) 222-6147
東京支店 第二営業部	〒108-0074	東京都港区高輪 2-17-11	TEL (03) 5488-5471
関東支店 第二営業課	〒108-0074	東京都港区高輪 2-17-11	TEL (03) 5488-1688
名古屋支店 第二営業課	〒460-8588	名古屋市中区錦 1-18-28	TEL (052) 201-5199
大阪支店 第二営業部	〒542-0081	大阪市中央区南船場 3-12-9 心斎橋プラザビル東館	TEL (06) 252-5231
広島支店 第二営業課	〒730-0031	広島市中区紙屋町 1-1-18 ヤマハビル	TEL (082) 244-3749
九州支店 第二営業課	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前 2-11-4	TEL (092) 472-2130
電子楽器営業部			
デジタルCBX営業課	〒430-8650	浜松市中沢町 10-1	TEL (053) 460-2432

所在地・電話番号などは変更されることがあります。

ホームページ <http://www.yamaha.co.jp/>

ニフティサーブ

「GO FMIDIVA」コマンドでFMIDIVAに入ると、ヤマハデジタル楽器およびDTM製品のフォーラムがございます。

電子会議：

- # 16 ヤマハSynth&CBX情報ボード
- # 17 ヤマハSynth&CBXユーザーズカフェ
- # 18 ヤマハSynth&CBX相談室

データライブラリー：

- # 8 ヤマハ/デジタルCBX

ヤマハ株式会社

